資産運用会社の実務を身につける

ファンドマネジメント講座

FUND MANAGEMENT

2024 Summer 2024年 夏季日程

早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター

おかげさまで
20周年

夏季限定テーマ

投資顧問考察2024
活用戦略と将来ビジョン

激動する世界の政治経済と金融市場。
役割を増す投資顧問ビジネスをベテラン講師が
分かりやすく展望します。

リニューアル!

リーガル＆コンプライアンス
基本スキルと運用コンプライアンス実務

コンプライアンス・チェックを行うために必要な基本スキルと知識を分かりやすく解説。

HYBRID **ハイブリッド形式で開講します。**
教室での対面、またはZoomでのオンライン受講のいずれかで選択可能です。

協力：日経メディアマーケティング株式会社

2024 Summer

ハイブリッド形式（対面またはオンライン受講を選択）で開講します。

- アセットマネジメント会社（投信・投資顧問会社）を中心とした資産運用ビジネスの実務全般について学ぶ講座です。
- 年4回（四半期ごと）の定期開講なので、ご自身の長期スケジュールに沿って受講できます。
- 網羅的に理解したい方、専門実務をピンポイントでスキルアップしたい方、双方のニーズに応えます。

※このご案内は 2024年4月1日時点での予定です。日程・講師・内容等は都合により変更させていただく場合がございます。
※本講座は日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の継続教育対象講座です。
※ファンドマネジメント講座はオリジナルテキストを使用します。テキスト代は受講料に含まれます。

総合基礎

▶▶▶詳細は P3 をご覧ください　48,000円(税込み)

5/17（金）	10:00～12:00	資産運用業界の概観と資産運用業務～フロント業務を中心として	120分	出水
	12:00～13:00	コンプライアンス業務の基礎／業務概観	60分	
	14:00～15:30	バックオフィス業務の基礎／業務概観	90分	和村
	15:30～17:00	ミドルオフィス業務の基礎／業務概観	90分	工藤

アセットマネジメント会社の主な部門について、その概観と基本的な業務内容をわかりやすく解説します。それぞれの役割や組織全体での位置づけ、一連のオペレーションプロセスが把握できます。なお、本講義のみ、業務経験が比較的浅く、まずは必要となる基礎知識を固めておきたい、という方を対象にしています。

ポートフォリオ・マネジメント業務 ～差別化に注目して

▶▶▶詳細は P4 をご覧ください　48,000円(税込み)

5/20（月）	10:00～11:30	資産運用会社の現状と運用の基礎知識：業界の現状と今後の見通し／商品の基礎知識／取扱商品の概要～メリット、デメリット、批判	90分	柏原
	11:30～13:00	どのようなプロダクトが必要なのか：家計の資産運用の現状と定着しない理由／運用会社の課題と変化／有望なプロダクト／差別化の源泉	90分	
	14:00～15:30	株式アクティブ運用を例として：運用スタイル、哲学、プロダクトの差別化／意思決定プロセスの確立／運用スタイル／成長性・バリュエーション分析、他	90分	
	15:30～17:00	為替とデリバティブの利用：プロダクト理解のための理論（為替編）／プロダクト理解のための理論（デリバティブ編）	90分	

資産運用会社において、運用業務はどのような背景があり、実際の運用業務がどのように行われているか、個別資産のポートフォリオの運用手法に加え、異なる資産や異なる戦略を組み合わせる方法など、幅広く講義のテーマとし、具体的に各運用手法の特徴や実務上の留意点をわかりやすく解説します。

資産運用システム構築戦略

▶▶▶詳細は P5 をご覧ください　48,000円(税込み)

5/21（火）	10:00～11:30	資産運用システムの全体構成概略とバックオフィス・システム：運用実績の記録と管理／基本データ構成／インターネットからクラウドへ／外部データ交換、他	90分	横山 内田 兼松
	11:30～13:00	フロントオフィス・システムとオルタナティブ資産への対応：伝統的資産のフロントオフィス・システム／IBOR/ABOR 視点の変化がもたらすシステム構造の変化、他	90分	
	14:00～15:30	ミドルオフィス・システムと運用成果データの管理：運用成果の分析と表明・報告／EUC とデータ・ウェアハウス／モダン・データ・ハブへの発展	90分	
	15:30～17:00	IT業務と資産運用システムの実装計画：IT業務の概要／データ・マネジメント業務／システムライフサイクルとシステムの実装計画	90分	

資産運用システムに関して網羅的に学習します。前半では標準的な機能やデータの配置・構成を概観し、実際に構築・導入する際の留意点を解説します。後半はこれまでの変遷と現状から、今後トレンドがどのように変化していくのか、また、システム投資を行うにあたり、コストや効果の測定、大規模なシステム刷新のタイミングなど、重要ポイントについて説明します。

債券ポートフォリオマネジメント業務 ～ 債券運用の理論と実務

▶▶▶詳細は P6 をご覧ください　48,000円(税込み)

5/24（金）	10:00～11:30	債券運用の実務で必要な基礎知識：債券と債券価格／イールドカーブ／スプレッド／債券のリスク	90分	横谷
	11:30～13:00	経済指標及びマーケットの見方：価格変動要因／経済指標サイクル／債券運用で必要な市場データ／市場リスク環境、他	90分	
	14:00～15:10	債券運用戦略の実行：債券投資の収益源泉／超過収益獲得戦略／イールドカーブ戦略／債券取引の実際、他	70分	
	15:10～17:00	変化する市場環境と債券運用のトレンド：金利の歴史／グローバル債券運用のトレンド／為替ヘッジを巡る議論／ ESG 債券投資、他	110分	

ベンチマークに対するグローバル債券アクティブ運用に焦点を当て、ポートフォリオ・マネジャーが実際にどのような業務を行っているのか、市場の分析から戦略立案、ポートフォリオにおける戦略の実行、債券売買までの実務につき解説します。また、昨今の低金利環境下における債券運用の課題や最近のトレンドも紹介します。

トレーディング業務

▶▶▶詳細は P7 をご覧ください　48,000円(税込み)

5/31（金）	10:00～11:30	バイサイドトレーディングの概要：基本イメージ／業務の流れとミッション／執行環境の高度化と内外金融法制・規制見直し、他	90分	西野
	11:30～13:00	エクイティトレーディング：取引・執行方法の種類／電子取引の活用事例／代替執行市場／外国株式取引の実務、他	90分	
	14:00～15:00	債券、外国為替、トレーディング、及び短期資金運用実務：取引概略／国内債券取引／外国債券取引／外国為替取引／短期資金取引	60分	
	15:00～17:00	執行コンプライアンスとトレーディング関連事項：グローバル潮流の変化／ブローカー選定・評価／システム・インフラ、他	120分	

バイサイドのトレーディング業務について網羅的に解説します。組織内での位置づけと役割、業務の流れなど概観から、執行コストの抑制方法、資産別売買における特徴やシステムの活用術および、組み合わせの具体例、実務上の留意点、コンプライアンスを含めた組織運営など実践面に至るまで、セルサイドとの関係も交えて詳しく紹介します。

リーガル&コンプライアンス【基本スキルと運用コンプライアンス実務】

▶▶▶詳細は P8 をご覧ください　48,000円(税込み)

6/3（月）	10:00～11:30	リーガルの基本スキル：法規制の構成と特徴／違反の影響／資産運用業に適用される法令／代表的な義務／資産運用業者の法務部の実務	90分	小野
	11:30～13:00	コンプライアンスの基本スキル：受託者責任の基本／コンプライアンスの基礎・態勢／近年、企業に求められるコンプライアンス／最新の論点	90分	
	14:00～15:30	運用コンプライアンスの基本スキル：運用コンプライアンスの基礎／運用（事後）コンプライアンスとモニタリング態勢	90分	伊藤
	15:30～17:00	運用コンプライアンススキルの応用「事例研究」：運用（事後）コンプライアンスとは／ガイドラインチェックの実務／約款・協会ルールの遵守状況確認手法の事例	90分	

資産運用業務の本質や法理論、リスクコントロールの基礎を解説します。リーガルおよびコンプライアンス・オフィサーにとって必要となる基本スキルが習得でき、運用・発注・営業・商品開発・計理・開示・外部委託部門等の方々も、ご自身によるコンプライアンス・チェックが可能となる具体的な技術が身につきます。

リスク管理業務

▶▶▶詳細は P9 をご覧ください　48,000円(税込み)

6/6（木）	10:00～11:30	リスク管理と内部統制：概説／失敗事例から学ぶ／心理バイアスの合理的判断への影響／リスク管理のポイント、他	90分	工藤
	11:30～13:00	運用リスク管理：運用リスクの種類と管理方法／ VaR 計算における各種設定／外部委託先管理の具体的な方法、他	90分	
	14:00～15:30	オペレーショナル・リスク管理：オペレーショナル・リスクの種類／管理の手法／CSA／定量化と課題、他	90分	
	15:30～17:00	統合リスク管理：顧客資産と自己資金での違い／統合リスク管理の実務／目指すべき自己資金のリスク管理態勢、他	90分	

これまでの顧客資産の運用リスク管理にとどまらず、資産運用会社にも保険会社・銀行等と同様に自己資本のリスク管理が求められるようになりました。こうした環境下、資産運用会社に求められるプリンシプルベースのリスク管理姿勢に関して、その概要と具体的手法について基本から詳しく解説します。

リサーチ・アナリスト業務【無形資産評価編】

▶▶▶詳細は P10 をご覧ください　48,000円(税込み)

6/7（金）	10:00～12:00	無形資産／知財に関する基礎知識：無形資産とは／諸外国の制度／特許庁サイトの使い方と内容の読み解き方、他	120分	三浦
	12:00～13:00	特許情報と投資判断：特許と業績・株価との関係／ネガティブイベントチェックで必須な情報／有効性の判断／留意点	60分	
	14:00～14:30	最近の無形資産に関する話題：DX ／対話型 AI（ChatGPT）	30分	
	14:30～16:30	定性価値および定量価値評価の手法：評価項目／スコア評価／非上場企業評価／業界トレンド予測への応用、他	120分	
	16:30～17:00	金銭的（定量）価値評価事例とミニ演習：青色発光ダイオード／オプジーボ	30分	

重要とされながらも、ほとんど手付かずになっている知的財産・特許情報について、入手・読解するノウハウを身につけ、企業の中長期戦略、または市場で認識されていない業界トレンドを推し量る力を高めます。定量スコアを用いたバリュエーションへの落とし込み方法など実務への応用まで、体系的かつ網羅的に学んでいきます。

ミドルオフィス業務

▶▶▶詳細は P11 をご覧ください　48,000円(税込み)

6/10（月）	10:00～11:30	運用評価で必要な基礎知識：リスクリターンから要因分析まで	90分	右田
	11:30～13:00	パフォーマンス測定の実務Ⅰ：残高・取引明細表／キャッシュフローによる収益の調整／GIPS準拠、他	90分	
	14:00～15:30	パフォーマンス測定の実務Ⅱ：日次厳密法と修正ディーツ法、複合効果／要因分析の誤差項／プレアデス累積方式、他	90分	
	15:30～17:00	パフォーマンス測定の実務Ⅲ：個別銘柄別寄与度／多段階要因分析／オルタナティブ運用の要因分析、他	90分	

運用評価業務、主に定量評価について学びます。リターンとその要因分析、およびリスクについての基本概念を把握した上で、プロが実際に行っているパフォーマンス測定の実務を、さまざまな計算事例に沿って、ひとつひとつ丁寧に、詳しく解説します。計算式入りのエクセルファイルをお持ち帰りいただきますので、後日あらためての復習も可能です。

バックオフィス業務【投信編】

▶▶▶詳細は P12 をご覧ください　48,000円(税込み)

6/14（金）	10:00～12:00	投資信託のしくみと委託者の役割：ファンドの形態と関係法人／日々の業務の流れ、他	120分	東中川
	13:00～15:00	計理仕訳：（基準価額の計算、株式約定、債券約定、外国投資勘定、追加・解約約定）＋ミニ演習	120分	
	15:00～16:30	決算関連業務（分配原資の計算）、外国投信を組入れたファンドオブファンズの留意点	90分	
	16:30～17:00	投信業界における最近の話題と今後の課題：SINGLE NAV／ARFP／バーゼルⅢ／ラップ型ファンド、他	30分	

投資信託委託会社における管理業務を体系的に学習します。最初にオペレーションの全体像を把握し、日々の業務である、①約定・受渡しに関する業務、②追加・解約に関する業務、③基準価額の計算に関する業務、から、④決算に関する業務、までを一通り理解した上で、今後の業界課題として認識しておくべき点を明確化します。

投資信託約款の読み込み方 ～「法律的根拠」や「制度的背景」明文化されていない「業界の知見」を学ぶ

▶▶▶詳細は P13 をご覧ください　48,000円(税込み)

6/19（水）	10:00～11:30	約款を読み込むための基本知識：投信約款とは何か／ 株式投信 と 公社債投信／証券投資信託／有価証券、他	90分	宮園
	11:30～13:00	本文からポイントを学ぶⅠ：事務委託／信託金／期間／勧誘／ NAV の計算／受益権分割／受益権の帰属と譲渡、他	90分	
	14:00～15:30	本文からポイントを学ぶⅡ：運用指図の範囲／投資制限／混蔵寄託／信託財産登記／資金借入と立替／計算期間、他	90分	
	15:30～17:00	本文からポイントを学ぶⅢ：信託報酬総額／収益分配／質権口記載／解約／約款変更／反対受益者／運報／公告、他	90分	

投信約款は投資信託の根幹ともいえますが、一般的に体系立って学習する術がないこともあり、分かり辛く、とっつきにくいと敬遠されるきらいがあります。本講義では、苦手意識を和らげるために実際の約款を教材の柱に据え、基本をきちんと押さえた後、実務上でよくある質問に答えるように条文を噛み砕いていく、腑に落ちるような説明をしていきます。

オルタナティブ投資関連業務【不動産ファンド／J - REIT編】 夏季限定テーマ

▶▶▶詳細は P14 をご覧ください　48,000円(税込み)

6/21（金）	10:00～11:00	不動産投資とは： 不動産の特性～株・債券投資との違い／商品の種類／不動産価格の考え方／商品特性と選び方、他	60分	大谷
	11:00～13:00	不動産市場の読み方とリスク管理手法： 不動産賃貸市場の読み方／不動産投資市場の読み方／リスク管理手法、他	120分	
	14:00～15:00	J-REIT 投資実務Ⅰ：市場概況（ 保有資産、セクター配分、投資家動向 ）／リスクリターン特性／成長メカニズム、他	60分	堀
	15:00～17:00	J-REIT 投資実務Ⅱ：運用状況と市場パフォーマンス、 ／銘柄評価とモニタリング／バリュエーションの考え方、他	120分	

不動産ファンドやREITの運用を行うためには、不動産と金融という2つの異なる分野を合わせて理解しなければなりません。本講義では、不動産や不動産証券化の基礎から、最近の市場動向、実際の不動産市場の予測方法やJ - REITの投資実務まで詳説します。初めての方でもわかりやすいように、不動産と金融それぞれの視点を踏まえて丁寧に解説していきます。

投資顧問考察2024 ～活用戦略と将来ビジョン 特別企画

▶▶▶詳細は P15 をご覧ください　48,000円(税込み)

6/24（月）	10:00～11:30	投資助言・投資一任の伝統的ビジネス：投資助言のビジネスの世界／投資一任のビジネスの世界	90分	和村
	11:30～13:00	投資信託ビジネスにおける投資顧問の活用：国内投資信託の外部委託／国内投資法／外国投資信託	90分	
	14:00～15:30	投資事業組合・LPS・プライベートエクイティでの投資顧問の展開：国内投資事業組合／LPS／プライベートエクイティ	90分	
	15:30～17:00	ラップ・SMA での投資顧問の展開：ラップ／SMA／ラップと SMA の違い／富裕層へのプライベートバンキング	90分	

投資顧問の仕組みを活用して運用を行うビジネスは業界多岐に広がっています。本テーマでは、投資顧問の役割が果す様々なバリエーションを紹介、投資顧問スキームが驚くほど大きなポテンシャルを秘めていることを実感、新たなビジネス展開へのヒントを掴みます。

AI運用 ～資産運用におけるAI開発とデータサイエンスのデザイン

▶▶▶詳細は P16 をご覧ください　48,000円(税込み)

6/27（木）	10:00～11:20	資産運用におけるAI：AI（人工知能）とは何か?／金融業界における機械化／市場理解と機械との競争	80分	長尾
	11:20～13:00	データサイエンスのデザイン：人間の弱点とAIの強み／AIとイノベーションのジレンマ／金融市場におけるAIの課題	100分	
	14:00～16:00	AI 運用：AI・機械学習を用いた投資戦略／機械学習のアルゴリズムと金融市場への応用	120分	西村
	16:00～17:00	AI 運用の開発プロセス：モデルの概要／最適パラメータ決定／リスク管理とモデル評価／ AI 運用戦略評価での留意点	60分	

資産運用業務における AI 技術適用の実際を学びます。ここ数年で AI 技術は様々な分野に用いられるようになりましたが、資産運用への適用については、金融市場の特殊性ゆえに、克服すべき課題がいくつか存在しています。これらの課題を整理し、解決法を概観しながら、AI の研究開発はどのように進めていけばよいか、実例を紹介しながら考察していきます。

バックオフィス業務【投資顧問・投資一任編】

▶▶▶詳細は P17 をご覧ください　48,000円(税込み)

6/28（金）	10:00～12:00	バックオフィス業務の概観：ファンド属性設定と銘柄属性設定／ファンド管理の日次・月次業務の流れ、法定帳簿等の電子化、他	120分	小田
	12:00～13:00	約定処理と株式議決権行使の実際：約定処理（国内資産）／約定処理（海外資産）／為替紐付／株式の議決権行使	60分	
	14:00～16:00	ファンド照合の実務：ファンドの経理基準と信託報告書との照合作業手順	120分	今成
	16:00～17:00	運用報告の実務：運用報告書とディスクローズ資料／法定書面／投資顧問料業務／投資顧問会社の管理会計	60分	

投資顧問の仕組みを活用して運用を行うビジネスは業界多岐に広がっています。本テーマでは、投資顧問の役割が果す様々なバリエーションを紹介、投資顧問スキームが驚くほど大きなポテンシャルを秘めていることを実感、新たなビジネス展開へのヒントを掴みます。

講師プロフィール

5/17(金) ファンドマネジメント総合基礎

講師			
	Session 1＆2	出水 里香	野村アセットマネジメント　人事部長
	Session 3	和村 雅義	エックスネット　シニアコンサルタント
	Session 4	工藤 協一	バーテックス・インベストメント・ソリューションズ　常務取締役　リスク管理・コンプライアンス部長

アセットマネジメント会社の組織体系上、柱となる部門について、基本的な業務内容と職務上必要な基礎知識を1日で学びます。それぞれ業務概観をしっかり解説しますので、各ビジネスラインの役割と連携、一連のオペレーションプロセスについて一通り理解することができます。本講義は実務面での経験の浅い方を対象にしていますが、経験が長い方でも、全体像をあらためて把握したい場合に最適のプログラムです。また、投資運用の関連業界の方には、各論ご受講前の導入としてお薦めしています。

Session. 1（120分）資産運用業界の概観と資産運用業務 ～フロント業務を中心として

1. 資産運用とは　～ 自分で投資するか、プロに任せるか

2. 資産運用業界の概観

- 投資顧問ビジネスとは　～ オーダーメイド型資産運用
- 投資信託ビジネスとは　～ レディメイド型資産運用
- 資産運用にかかわる法令諸規則

3. プロフェッショナルとしての資産運用とは

- フロント業務（営業）
  - ⇨ 投資顧問ビジネスにおける営業
  - ⇨ 投資信託ビジネスにおける営業
- フロント業務（運用）
  - ⇨ 資産運用の Plan ― Do ― See
  - ⇨ リサーチ
    - ►エコノミスト／ストラテジスト／アナリスト／クォンツアナリスト／クレジットアナリスト
    - ►セルサイドとバイサイド
    - ►投資銘柄に対するコーポレートガバナンス活動
  - ⇨ ポートフォリオマネジメント
    - ►分散投資の理論　～ アセットアロケーション
    - ►CAPM
    - ►パッシブ運用
    - ►アクティブ運用　～ 株式運用の場合と債券運用の場合
    - ►オルタナティブインベストメント
  - ⇨ トレーディング
    - ►トレーディングの仕組みと最良執行
- ミドル業務
  - ⇨ リスク分析
  - ⇨ パフォーマンス分析／リスク・リターンの総合評価
- バックオフィス業務
  - ⇨ バックオフィス業務に求められるもの
- コンプライアンス業務
  - ⇨ コンプライアンス（ブレーキ）
  - ⇨ 法務（アクセル）
  - ⇨ 内部監査

4. 資産運用会社にとってのシステム

- フロント用／ミドルオフィス用／バックオフィス用／コンプライアンス用
- STP（Straight Through Processing）

5. 資産運用会社の社会的位置づけ

Session. 2（60分）コンプライアンス業務の基礎と概観

1. 総論：資産運用会社のコンプライアンスとは　～ 法令遵守?

2. フィデューシャリー・デューティー（受託者責任）

3. 各論：コンプライアンス業務の実際

- コンプライアンス体制　～ コンプライアンス部だけがコンプライアンス業務を行っているわけではない
- コンプライアンス態勢　～ 体制と態勢の違い
- コンプライアンス部の各業務へのかかわり方
  - ⇨ フロント業務（営業）とのかかわり
  - ⇨ フロント業務（運用）とのかかわり
  - ⇨ ミドル業務とのかかわり
  - ⇨ バックオフィス業務とのかかわり
  - ⇨ 全般的な業務
- 当局によるモニタリング　～ 金融商品取引業者等のあるべき姿

Session. 3（90分）バックオフィス業務の基礎と概観

1. バックオフィス業務の全体像

- バックオフィスの業務項目
- 投資信託の業務サイクルと業務項目
- 投資顧問の業務サイクルと業務項目
- 役割分担とリーガル・ストラクチャー
- 外国籍／国内籍投信比較
- 投資信託と投資顧問のビジネスの範囲比較

2. データプロセッシング

- 約定フローと約定データ項目
- データの作成プロセスとサイクル
- データ蓄積の目的
  - ⇨ 運用
  - ⇨ モニタリング
  - ⇨ 受託銀行の計理データと照合
  - ⇨ 社外向け報告、営業用資料の元データ
  - ⇨ 社内管理の基礎データ

3. 運用報告書

- 投資信託報告書の種類
- 投資顧問報告書の種類
- 投資顧問報告書サンプル

Session. 4（90分）ミドルオフィス業務の基礎と概観

1. 運用哲学と運用プロセス

2. 資産運用会社におけるミドルオフィス業務

- ミドルオフィス業務の位置付けと主要業務

3. パフォーマンス評価の目的

- 運用委託者・運用受託者、それぞれの立場での違い
- パフォーマンス評価に求められる要件

4. 定量評価

- 定量評価の方法
- 相対リターン（対ベンチマーク）
- パフォーマンスの計測ルール
- ユニバース（ピアグループ）比較
- スタイル分析／執行コスト分析
- ヘッジファンド等で使用されるリスク測度

5. パフォーマンスの要因分析

- ブリンソン要因分析理論　～ 要因分解が成立する理由

6. パフォーマンスの定性評価

- 運用委託者の視点と資産運用会社５つの“Ｐ”の視点

7. リスク管理

- 資産運用会社における各リスクの定義
- 市場リスク管理の方法
- リスク量管理

8. リスク考慮後のパフォーマンス分析

- 代表的なリスク考慮後のリターンの尺度

9. ミドルオフィス業務の課題

5/20(月) ポートフォリオ・マネジメント業務 ～差別化に注目して

講師			
	全セッション	柏原 延行	丸三証券　常務執行役員　投資信託部長　チーフ・グローバル・ストラテジスト

講師は、みずほフィナンシャルグループの資産運用会社で株式運用部長、企業調査部長、運用戦略部長、執行役員など、運用部門で 30 年近く勤務し、現在は販売会社の商品選定部門で様々な運用会社と接点を持っています。
本講義では、「運用会社の中での経験」、及び「運用会社の取引相手として運用会社を外からみた視点」から、差別化に注目してポートフォリオ・マネジメントについて解説します。具体的な内容としては、「①資産運用会社の現状と運用の基礎知識」、「②どのようなプロダクトが必要なのか」、「③株式アクティブ運用を例として」、「④為替とデリバティブの利用」について、わかりやすく解説します。

Session. 1（90分）資産運用会社の現状と運用の基礎知識

1. 資産運用業界の現状と今後の見通し

- 2つの箱（投資顧問と投資信託）とその特徴
- 資産運用会社の経営戦略（本当に成長産業なのか?）

2. 商品の特徴を理解するための基礎知識

- マーコビッツのポートフォリオセレクション
- 効率的市場仮説
- シャープによるベータ値の導入、CAPM
- アノマリーの存在
- 行動ファイナンス理論

3. 取扱商品の概要
～ メリット、デメリットに注目、どのような批判があるか?

- パッシブ運用　～ ただ乗り? ～
- アクティブ運用　～ ベンチマークに勝つためには? ～
- パッシブとアクティブの関係は?
- クォンツ運用　～ 伝統的なファンドマネジメントとの相違点 ～
- オルタナティブ運用　～ 最も注目を集める投資手法? ～

Session. 2（90分）どのようなプロダクトが必要なのか

1. 家計の資産運用の現状

- 100年安心年金の仕組み（年金制度自体は持続可能、しかし…）
- 限定的な家計の資産運用　～ 預金への偏重 ～
- 預金へ偏重しても問題なかった?　～ 重要なことは購買力の維持 ～
- インフレでなくても失われた購買力
- インフレになると　～ 不動産がインフレヘッジ機能を喪失 ～

2. 家計の資産運用が定着しない理由

- 仮説　～金融リテラシー or 株式市場の不振 or 円高 or 金融サービスの担い手の問題～

3. 運用会社の課題と変化

- 機関投資家ビジネスと家計向けビジネス等
- 資産運用業高度化プログレスレポート 2022、2023
- 多すぎるプロダクトと新規設定

4. 有望なプロダクトは?

- インデックス（スマートベータ）?
- 預金代替?
- アクティブ?

5. 差別化の源泉は

- アセットクラス
- 定量面
- 定性面

Session. 3（90分）株式アクティブ運用を例として

1. 運用スタイル、哲学、プロダクトの差別化

- 一般論
- 大規模な会社と小規模な会社

2. 意思決定プロセス確立の重要性

3. 運用スタイル

4. 成長性分析

- 段階
- 定量
- 収益モデル
- 経営戦略分析

5. バリュエーション分析

- マルチプル型
- 割引型
- その他

6. その他の投資判断の材料
～ マクロ、セミマクロの環境を理解することの重要性

7. リスクモデルによるリスクコントロール

8. アクティブ運用の評価方法

Session. 4（90分）為替とデリバティブの利用

1. プロダクト理解のための理論：為替編

- 為替取引とは（スポットと為替予約取引、先渡し、先物）
- 為替取引によるプレミアム（金利平価説の観点から）

2. プロダクト理解のための理論：デリバティブ編

- ペイオフパターン図
- オプション（その種類と特殊な条項）
- 具体的な商品例
- キャッシュフロー
- オプションの価格はどのように決定されるのか?（モンテカルロの仕組みとブラックショールズモデル）
- オプションが現物市場に与える影響（デルタの概念とデルタヘッジ）

5/21(火) 資産運用システム構築戦略

講師	全セッション	横山 陽一	野村総合研究所　資産運用ソリューション事業本部　シニアチーフエキスパート
		内田 昌孝	野村総合研究所　資産運用ソリューション事業本部　シニア・マイスター
		兼松 敏	元 野村総合研究所　資産運用サービス事業推進部　シニア・マイスター

金融業界におけるITの進化はめざましく、グローバル化の進展に伴い高度化、複雑化しています。
とりわけ専門性の高い資産運用業界においては、あらゆる部門で多種多様なITが利用されており、資産運用会社の総合的なIT環境に関する見識を高めていくことが経営の課題、業界の課題として浮上しています。
本講義では資産運用会社のシステムの全体像を概観したうえで、ITシステムの実装時のポイントやIT戦略立案上のポイントを紹介していきます。IT業務従事者、ITベンダーの方のみならず、経営サイドの方にも参考にしていただけるプログラムです。

Session. 1（90分） 資産運用システムの全体構成概略とバックオフィス・システム

現在資産運用業界で使われている標準的なシステム機能の配置・構成や、そこで取り扱う基本的なデータの構造を概観し、その中で最も古くからシステム化されてきたバックオフィス・システムについて、成り立ちから今後の変化の方向性について解説します。

1. バックオフィス・システム　～ 運用実績の記録と管理

- 管理内容と役割
- 位置づけ
- 主な機能内容
- 投資信託と投資顧問の違い
- 欧米と日本の業務フォーメーションの違い

2. 資産運用の基本データ構成

- 資産運用システムにおける標準的なデータ・スキーマ（例）
- ファンド・口座・ポートフォリオ
- 取引データの管理項目と役割
- 残高データの管理項目と役割
- 取引データと残高データの関係／取引・残高から導出されるデータ

3. インターネットからクラウドへ　システム環境の変化がもたらす業務プロセスの変化

- 資産運用システムに変化をもたらす要因
- クラウド・サービスとは?
- データ連携手段の近代化と業務改革
- 業務プロセスの共有

4. 外部とのデータ交換

- ネットワークを用いた STP
- 位置づけ
- 主な外部ネットワーク
- （補論）社外システムとのデータ接続における留意点

5. マーケット情報の管理

- 位置づけ
- データの種類と利用方法
- （補論）マーケット・データのコスト問題

Session. 2（90分） フロントオフィス・システムとオルタナティブ資産への対応

伝統的資産の運用執行をサポートするフロントオフィス・システムの役割と機能・データ構成を概観し、そのベースとなるポジションの管理視点の変化について解説します。また、伝統的資産と異なるオルタナティブ資産の管理のための機能について解説します。

1. 伝統的資産のフロントオフィス・システム

- 位置づけ　案件作成から執行・その確認
- 機能構成図
- 機能概要とシステムの効果
- システム化の効果
- 機能イメージ
- 求められる要件
- フロントオフィス・システムのデータ範囲
- フロント・ミドル・バックの必要データの違い

2. IBOR/ABOR 視点の変化がもたらすシステム構造の変化

- 資産運用システムの管理データ範囲の変化
- バックオフィス・システムの本来の役割と現状
- 近年のシステム構成　～アカウンティング・レス・バックオフィス
- IBOR/ABOR とは
- IBOR 導入による業務フローの変化
- IBOR に関する共通認識の必要性
- 機関投資家の意識変化

3. オルタナティブ投資の拡大がもたらす必要機能の変化

- オルタナティブ投資について
- オルタナティブ投資のフロント・オフィス機能　位置づけ　運用対象の発掘と絞り込み
- オルタナティブ投資のフロント・オフィス機能　概要
- オルタナティブ投資のバック・ミドル・オフィス機能　伝統的資産と異なるプロセスの管理
- 伝統的資産と異なるデータ管理

Session. 3（90分） ミドルオフィス・システムと運用成果データの管理

運用成果情報の管理と分析を行うミドルオフィス・システムの機能構成を概観し、運用成果をはじめとした各種データの管理について、EUC（エンド・ユーザ・コンピューティング）や DWH（データ・ウェアハウス）に着目して解説します。

1. ミドルオフィス・システム　～運用成果の分析と表明・報告

- 位置づけ
- 機能構成
- 機能概要
- 求められる要件

2. EUC とデータ・ウェアハウス

- 資産運用における EUC の位置づけ
- 基幹系システムから EUC へのデータ開放
- EUC による業務プロセス構築時の留意点
- データ・ウェアハウスを中核とした EUC 環境の整備
- ユーザ・インタフェースの工夫
- データ内容の理解度の向上策
- データ構造の工夫

3. モダン・データ・ハブへの発展

- 企業を超えた運用成果データの共有
- （補論）複数サービス・システム間の整合性確保

＜補足＞他業態の資産運用システム構成

- 資産管理会社
- 機関投資家（プラン・スポンサーなど ― 委託運用を中心とした構成）
- 機関投資家（生損保など ― インハウス運用をメインとした構成）

Session. 4（90分） IT 業務と資産運用システムの実装計画

最初に、IT セクションの担う「情報管理」業務の概要についてご説明します。また、システム投資の時期とバランス、アウトソーシングとシステム化の比較等、システム投資に関して考慮すべきポイントを挙げて解説します。

1. IT 業務の概要

- システムの構成要素
- 調達手段の変化
- クラウド・サービスの範囲
- IT 部門の主要業務（例）
- システムの安定的な稼働　①障害対策
- システムの安定的な稼働　②災害対策
- （参考）テレワークを支える IT の仕組み
- 外部の脅威からの防御
- 老朽化対策　IT モダナイゼーション

2. データ・マネジメント業務

- データ・ウェアハウスの陳腐化問題
- データ・マネジメント組織（DMO）の必要性
- DMO の業務を支援するデータ・ウエアハウスの機能

3. システムライフサイクルとシステムの実装計画

- システムの導入目的の明確化
- IT 化しない選択肢　～ アウトソーシング
- システム刷新と人材育成

5/24(金) 債券ポートフォリオマネジメント業務 ～債券運用の理論と実務

講師	全セッション	横谷 宏史	ピクテ・ジャパン　執行役員　商品本部長

資産運用会社の債券アクティブおよびパッシブ運用において、ポートフォリオ・マネジャーが実際にどのような業務を行っているのか、市場の分析から戦略立案、ポートフォリオにおける戦略の実行、債券売買までの実務について解説します。
講義では債券運用実務において必要な債券の基礎知識のほか、どのような視点で経済指標や市場を見て運用戦略を立案し、それをポートフォリオに反映させるのか、債券ポートフォリオ・マネジャーの視点を少しでも感じていただけるよう講義を進めます。また、金利の歴史を振り返るとともに、2000 年代に入ってからの低金利、そして最近の金利上昇下における債券運用の課題や最近のトレンドを紹介します。債券のポートフォリオ・マネジャーを目指している方だけではなく、広く運用関連の業務に従事している方々に、債券ポートフォリオマネジメント運用業務の実際を知っていただくことを目的とします。

Session. 1（90分） 実務で必要な基礎知識

1. 債券

- 債券の経済効果とペイオフ
- 債券属性の見方（ブルームバーグ画面から債券属性を読み取る）

2. 債券価格

- 債券価格と金利の関係
- デュレーションとコンベクシティ
- 経過利息
- オファービッド

3. イールドカーブ

- イールドカーブの決定要因と変動要因

4. スプレッド

- 国債以外の債券種別（政府関連債、社債、資産担保債等）
- スプレッドの決定要因
- CDS

5. 債券のリスク

- 様々な市場リスク
- 証券固有のリスク

Session. 2（90分） 経済指標およびマーケットの見方

1. 債券価格の変動要因

2. 主要国の金融政策の見方

3. 経済指標サイクルの見方

- マーケットエコノミストの視点で見る経済指標
- より重要なのはパーセプション・ギャップ

4. ケーススタディ（1）

- 米国の経済指標サイクルを例に、重要指標のパーセプション・ギャップを予測する

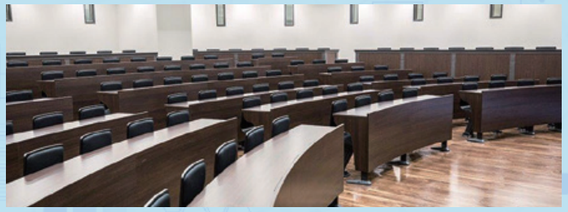
5. 債券運用の立場から必要な市場データ

6. 市場リスク環境の見方

Session. 3（70分） 債券運用戦略の実行

1. 債券運用の基本

- パッシブ運用とアクティブ運用
- パッシブ運用の戦術
- アクティブ運用の戦術
- 運用パフォーマンス評価の基本
- リスク管理の基本



2. 債券の収益源泉

- キャピタルゲインとインカムゲイン、方向性とボラティリティ

3. 超過収益獲得のための戦略

- デュレーション戦略
- 国別配分戦略
- イールドカーブ戦略

4. イールドカーブの変動要因

- イールドカーブの変動要因
- 主成分分析
- イールドカーブの形状変化

5. ケーススタディ（2）

- イールドカーブの変化をとらえる

6. イールドカーブ戦略とケーススタディ（3）

- ダンベルブレット戦略を例に

7. 債券取引の実際

- 各国国債の特徴
- 権利落ち
- インデックスのデュレーション・エクステンション
- 債券取引の実際

Session. 4（110分） 変化する市場環境と債券運用のトレンド

1. 金利の歴史を振り返る

- 世界の金利の歴史
- 2000 年代の日本、米国
- 1940 年代の米国の経験
- マイナス金利とキャッシュ運用、マイナス金利下の債券投資

2. グローバル債券運用のトレンド

- 2000 年代以降の債券運用における様々な取り組み
- 「総合化」とグローバル総合指数
- 「純化」と脱・時価ウェイトインデックス
- 高利回り債券への投資
- スプレッド物債券の特徴
- 新興国債券
- ETF における債券運用の特徴

3. 為替ヘッジをめぐる議論

- 為替レートの決定理論
- 為替ヘッジに関する論点整理
- 国内債券とヘッジ外債の関係
- TBA ダラーロール戦略
- ドル円ヘッジコストと為替ベーシス

4. ESG 債券投資の潮流

- 株式投資との違い
- 社会的リターンか、経済的リターンか
- ESG 債券投資の類型
- 信用格付けと ESG 評価
- グリーンボンドの課題
- パリ協定と気候変動投資
- ESG 債券投資のトレンド

5/31(金) トレーディング業務

講師 全セッション　西野 俊介　セゾン投信　上級顧問　運用管理等担当

日々巨額の売買発注を行っている資産運用会社のトレーディング業務内容は意外に知られていません。
本講義ではバイサイドトレーディングについて網羅的に解説します。主に執行コンプライアンスの視点で、組織内での位置づけ役割、業務の流れ等の概観から、執行コストの抑制方法、資産別の売買における特徴やシステム、実務上の留意点、コンプライアンスを含めた組織運営など実践に至るまで、セルサイドとの関係も交えて詳しく紹介します。 この分野で起こっている最新情報を得る上での貴重な機会として、売買実務者はもちろん、監査法人、金融市場関連の情報ベンダーやフロント系システム開発会社にお勤めの方、証券会社のトレーディング部門の方にもお勧めするプログラムです。

Session. 1 バイサイドトレーディングの概要（90分）

1. トレーディング業務の基本イメージ
・トレーディング業務の流れ、及び部門の位置づけ

2. バイサイドトレーディング部門のミッション
・ファンドマネージャーとの役割分担と連携
・バイサイドにおける最良執行の定義　～ 価格の妥当性判断、説明責任等
・狭義の執行コストと広義の執行コストの認識
・執行コスト・ベンチマーク対比とコスト削減への取組　～ 執行コスト分析ツールの活用

3. 執行環境を激変させた3大潮流変化と一部反転・パラダイムシフトの兆し（理想と現実のギャップ）
①金融 IT テクノロジーの進化による取引の高度化、多様化
・取引所売買システムのバージョンアップ、クロージング・オークション導入等の制度変更とHFT（高速・高頻度売買主体）の台頭がもたらす変化
②世界経済危機（リーマン、コロナ）が金融規制と未曽有の金融緩和を誘発、パッシブ化に拍車
・過度で急激なパッシブ化がもたらす市場の歪みと逆風のアクティブファンドへの期待と役割
③国内外の金融法制改定・規制見直し
・2018年1月施行のMiFID2看板規制“コミッション・アンバンドリング”の誤算により一転見直し機運の EU、英国と、猶予期間を経て 2023年7月から同様政策が適用された米国金融市場との政策ギャップがグローバル金融市場に与える影響、及び国内金融機関が今後取り得る対応策
・フェアディスクロージャールールが問う“リサーチ情報”の『質』と『価値』、及び処分の実例
★上記潮流変化にさらされたセルサイドビジネススキームの変容
・金融規制強化によるポジション縮小と、大規模金融緩和で変わる証券会社のエクイティビジネス収益構造と大きな落とし穴（プライム・ブロカレッジビジネスの甘い蜜と露呈した過大レバレッジリスク）
・6年連続アナリスト総合ランク1位の大和、リサーチは一部外注でソリューションビジネスやウエルスマネジメントへのシフトを進める野村…等々、興味深い外資、日系大手証券各社の重点営業策の違い
・米・日で進む個人向け手数料（投信・株式）ゼロ化の行き着く先と機関投資家への影響
・ライン証券の証券サービス縮小公表と100 万口座突破の PayPay 証券に見るZ 世代開拓競争の厳しさ
・米 SEC も調査「ゼロ手数料」の原資の裏側（注文回送とリベート授受スキーム　“ペイメント・フォー・オーダー・フロー”

4. 金融行政の基本目標・方針　～“最良執行”に関する 諸外国との対比
・“金融育成庁”を標榜する監督行政の「金融検査・監督の考え方と進め方」に基づく最近の各施策
・“資産運用立国実現プラン”（2023年12月）の「資産運用業高度化」、「アセットオーナー機能強化」
・2023 年 1 月施行の最良執行方針等に関する規則の影響及び、“取引所一極集中緩和”への効果
・証券各社の“最良執行方針”改定内容（プリファレンシング防止、レイテンシー・アービトラージ対策等々）
・機関投資家の“エンゲージメント”強化期待と、“大量保有報告制度”、及び 17 年ぶりとなる“TOB ルール”見直し
・日、米、欧の関連法制との対比で見るバイサイドの最良執行義務（最良執行4要素の捉え方の違い）

Session. 2 エクイティトレーディング実務（90分）

1. 取引の種類と執行方法
・エクイティ取引の種類　～ ハイタッチ執行とロータッチ執行の分類
・多様化する執行手法（AIの活用領域等）と、それぞれのメリット比較

2. 取引の実際
・執行プラン立案、及び実際の発注と執行プロセスのモニタリング
・ポートフォリオのリバランスとバスケット取引執行時の留意点（プライド・バスケット等含む）

3. 電子取引の活用事例
・DMA、DSA
・アルゴリズム取引（AIアルゴの現状）

4. 取引所外流動性（代替執行市場）へのアクセス
・PTSとダークプール、及びこれらを活かすSOR（Smart Order Routing）
・オーダー秘匿性の観点から機関投資家も神経を尖らす、HFTのダークプール及びPTS利用態様（レイテンシー・アービトラージ等の実態）

5. 外国株式取引の実務
・時差のある市場における発注、約定処理のタイミングと取引手法
・各国市場毎に異なるルールの把握と取引時留意事項（2024 年 5 月に予定される北米株 T＋1 への対応）
・外国株運用の３形態
・外国為替の手当て
・外国株信用取引解禁
・欧米運用会社におけるグローバル資産トレーディング手法の傾向、及びアジア株取引におけるブローカー評価

Session. 3 債券、外国為替、トレーディング、及び短期資金運用実務（60分）

～エクイティトレーディングとの差異を中心に解説～　（下記項目に関する詳細はテキスト巻末に記載）

1. 取引の概略

2. 国内債券取引
・債券売買業務の流れと実務上の留意点
・セカンダリー売買のポイント（国債、事業債）と新発債取引の実務
・日銀政策変更の思惑から増加する“フェイル”や、社債発行、投資への影響等々、最近の事象解説

3. 外国債券取引
・取引時の留意点（時差、決済サイクル、為替の手当て、Pot 方式による新発債への応募等々）

4. 外国為替取引
・実需為替（カバー為替）における留意事項
・ヘッジ為替における留意事項、その他の留意事項と、NDF取引
・2024 年5月実施の北米株 T＋1導入で懸念される東京外為 T＋0対応の諸リスク等

5. 短期資金取引
・日銀金融政策変更（マイナス金利解除）に伴う運用会社余資運用の対応変化

Session. 4 執行コンプライアンスとトレーディング関連事項（120分）

1. グローバル潮流の変化と、国内市場へのインプリケーション
・MiFID2の看板規制“コミッション・アンバンドリング”（株式委託手数料の内訳開示）の見直しを余儀なくされた EU、英国それぞれの金融当局の思惑と背景
・コミッション・シェアリング・アレンジメント（CSA）の内容と、“日本版 CSA”実現の難しさ
・国内公的年金の“ソフトダラー”に対するスタンス

2. 国内市場における執行コンプライアンス関連共通課題と最良執行への取り組み
・HFT（高頻度・高速取引）唯一の日系ファームを含む登録業者の素顔と内外当局による規制、及び登録業者の少なからぬ離脱に見る厳しい競争の実態（金融庁による HFT への監督指針内容等も含む）
・PTSの現状と拡大への課題（2023 年 6 月東証の呼値縮小対象銘柄 TOPIX ミッド400拡大の影響）
・PTS による信用取引認可（2019 年8月）後のシェア拡大を受けた HFT 等の利用動向、及び政省令見直し（個人向け取引のプライス重視の執行義務付け）後の変化　～“Comply or Explain”～）
2022年6月27日オペレーション開始の新 PTS（ODX）を加えて国内３社体制となったPTSの今後の展望

3. 執行コンプライアンスと社内牽制機能の実際
・牽制・監視機能と売買監査の基本項目
・執行コンプライアンス・チェックのポイント　～ 特に法令違反回避に向けた留意点
・金商法上の禁止行為等（“相場操縦”と看做されて証券取引等監視委員会に告発された最近の事例解説）
・トレード・モニタリングの実務（株式IPO、新発債応募ルールのポイント等含む）

4. ブローカー選定・評価ポリシーと実務
・ブローカー選定規則の枠組みと選定委員会の設置ポリシー
・評価項目と評価実務、及び関連部門間の評価ウエイトの考え方
～ 悩ましい“リサーチ”評価の対応等
・評価結果レビューの考え方と留意点
・債券、為替取引ブローカーの評価と選定（何故、債券・為替業者のスコアリングが一般的ではないのか）
・発注停止・発注先リスト除外措置の考え方と一般的なルール（最近の当局告発事例への対応と併せて解説）

5. トレーディングシステム・インフラ（各種ツールの主要機能の違い、特徴等も解説）
・OMSとEMS
・電子取引ツールと執行分析ツール
・執行コンプライアンス関連ツール
・“AIトレーディング”の期待と現実（アカウンタビリティの壁等々）

6/3(月) リーガル&コンプライアンス【基本スキルと運用コンプライアンス実務】

講師 Session 1&2　小野 高央　アセットマネジメントOne　リスク管理本部　法務グループ長　弁護士
Session 3&4　伊藤 昌哉　アセットマネジメントOne　リスク管理本部　コンプライアンス統括グループ　運用コンプライアンスチーム長

資産運用立国が掲げられている今、年金や家計金融資産等の運用を担う資産運用会社は、法令を遵守するだけでなく、社会的責任、時に道徳的責任までもが問われ、これらを果たすための高度なガバナンス・コンプライアンス態勢が求められています。しかしながら、適用される法規制や運用手法・投資対象資産の変化・高度化・多様化は著しく、かつ受託者責任等も課され、対応は容易ではありません。
本講義では、資産運用業務の本質に基づいて、法理論・リスクコントロールの基礎等、リーガル&コンプライアンス・オフィサーが必要とする基本スキルを身につけることができます。また、自らでコンプライアンス・チェックを行うために必要な知識も分かりやすく解説しますので、運用・発注・営業・商品開発・計理・開示・外部委託部門等に所属する役職者の方でも、業務に即した具体的なチェックの方法を学ぶことができます。
（注：投資運用業の中の投資一任業務と、投信委託業務をベースに解説します。）

Session. 1 リーガルの基本スキル（90分）

1. 法規制の構成と特徴
・投資運用業に係る法規制の構成と範囲
・業者に適用される主要法令
・顧客に適用される主要法令
・法令理解のための基礎
⇨ 法律・政令（施行令）・省令（施行規則）
⇨ 公法と私法
⇨ 法概念の相対性
⇨ 特別法と一般法
⇨ 強行法規と任意法規
・法令以外の理解のための基礎
⇨ 監督指針、協会自主規制ルール、等

2. 違反した場合の影響
・違反した場合はどうなるか

3. 資産運用業者に適用される法令
・投資運用業
・投資助言・代理業
・第二種金融商品取引業

4. 代表的な義務
・善管注意義務
⇨ 注意義務とは
⇨ 民法上の善管注意義務、会社法上の善管注意義務、金商法上の善管注意義務
⇨ 法概念の相対性
・忠実義務
⇨ 忠実義務とは
⇨ 忠実義務の理解　～ 善管注意義務との関係
⇨ 投信約款と忠実義務
⇨ 投信における約款の法的性質
・説明責任
⇨ 説明責任とは
⇨ ヴィークルによる相違
・誠実・公正義務

5. 資産運用業者の法務部の実務
・業務範囲の確認
・防衛法務と戦略法務
・顧問弁護士との付き合い方
・社内弁護士の活用
・予算管理
・Legal Tech

Session. 2 コンプライアンスの基本スキル（90分）

1. 受託者責任の基本
・受託者責任とは
・なぜ受託者責任が生じるのか？　～ 発生のメカニズムが分かれば対処も分かる
⇨ 金融商品取引業者等における受託者責任
⇨ 自己執行義務
⇨ 運用外部委託と監督責任
⇨「善管注意義務」と「慎重な専門家の注意」
・開示の目的と効果
⇨ 民法上の報告義務　～ 受任者による報告
⇨ 依存度と開示の関係
⇨ 開示頻度と信頼度の関係

2. コンプライアンスの基礎
・コンプライアンスとは何か　～ 狭義のコンプライアンスと広義のコンプライアンス
・コンプライアンスに係る環境変化

3. コンプライアンス態勢
・態勢構築の目的
・態勢構築の手順（一例）
・連携体制の構築
・最近の当局の動き

4. 近年企業に求められるコンプライアンス
・CSR、公益通報、コンダクトリスク
・ビックモーター事件、ENEOS ホールディングス、タムロン…
⇨ ダスキン株主訴訟（大阪高判平成18年6月9日）

5. 資産運用業におけるコンプライアンスにかかる最新の論点
・ミドル・バックオフィス業務の外部委託

Session. 3 運用コンプライアンスの基本スキル（90分）

1. 運用コンプライアンスとは
・運用コンプライアンスとは
約款、法令、顧客ガイドライン等のチェック
・なぜ運用コンプライアンスが重要か?
⇨ 自立的統制と牽制
⇨ 自立的統制の在り方
事前コンプライアンスチェックの重要性について
⇨ 牽制の在り方
事後コンプライアンスチェックの意味
運用者に対する牽制
売買執行者に対する牽制
外部委託先に対する牽制

2. 運用コンプライアンスの基礎
・運用コンプライアンスとは　～ 事後コンプライアンスの重要性
・コンプライアンスに係る環境変化
例）新 NISA、ESG ファンドのモニタリングなど

3. 運用（事後）コンプライアンスとモニタリング態勢
・態勢構築の目的
・態勢構築の手順、業務フロー（一例）
・連携体制の構築

Session. 4 運用コンプライアンススキルの応用「事例研究」（90分）

1. 運用（事後）コンプライアンスとは
・運用（事後）コンプライアンスとは
約款、法令、顧客ガイドライン等のチェック
目的と対応

2. ガイドラインチェックの実務
・約款・協会ルールのチェック手法
・対応方法による違い

3. 約款・協会ルールの遵守状況確認手法の事例
・ルール設定方法
・チェック体制、方法、業務フロー（一例）
・抵触事案の連携体制
・是正の確認

6/6(木) リスク管理業務

講師 全セッション　工藤 協一　パーテックス・インベストメント・ソリューションズ　常務取締役　リスク管理・コンプライアンス部長

資産運用会社におけるリスク管理業務を概観します。
内部統制態勢が整備されるなか、リスク管理業務においても高度化が進んでいます。 これまでの顧客資産の運用リスク管理にとどまらず、資産運用会社にも保険会社・銀行等と同様に自己資本のリスク管理が求められはじめています。 こうした環境下、資産運用会社に求められるプリンシプルベースのリスク管理態勢に関して、その概要と具体的手法について解説します。
本講義はリスク管理業務に初めて従事する方、もしくはまだ日の浅い方、リスク管理部門と関連のある部署にお勤めで、リスク管理業務の全体像を掴みたいという方、リスク管理を考慮したシステム構築を手掛けられているIT企業の方々を対象にしています。

Session. 1（90分） リスク管理と内部統制

1. コーポレート・ガバナンスと内部統制
2. リスク管理をめぐる外部動向
   - 内部統制の世界的な流れ
   - 日本における導入の背景
   - 内部統制の動向における「 COSO 」の位置付け
3. 監督官庁等が公表した文書等の概略
   - 監督官庁の組織
   - 監督指針とは
   - 検査マニュアルとは
4. 失敗事例から学ぶ
5. 「 心理バイアス 」による合理的判断への影響
   - コイン投げの事例
   - 損益認識の事例
6. リスク管理のポイント

Session. 2（90分） 運用リスク管理

1. 運用リスクの種類
   - 市場リスク　～ 金利リスク、価格変動リスク、為替リスク
   - 信用リスク
   - 取引先リスク
   - 流動性リスク
2. リスク顕在化の具体例
3. 市場リスク管理の具体的な方法
   - ポジション管理
   - リミット管理
   - 市場リスク量管理
   - 個別案件リスク管理
   - 市場リスク量　～ 市場VaRの計測手法
   - 市場VaRの計算　～ 分散共分散法
4. 信用リスク管理の具体的な方法
   - 信用VaRの計算　～ モンテカルロ法
5. 取引先リスク管理の具体的な方法
6. 流動性リスク管理の具体的な方法
7. VaR 計算における各種設定
   - 保有期間
   - 信頼区間
   - データ取得期間、取得間隔の影響
   - 設定の難しさ
   - VaR以外の定量的リスク把握方法
   - ストレス・テスト
8. 外部委託先管理の具体的な方法
   - デューデリジェンス
   - 自社運用と同様のモニタリング
   - 自社運用とは別のリスク管理
   - 実地調査
   - 主なチェック項目
9. 運用リスク管理構造

Session. 3（90分） オペレーショナル・リスク管理

1. オペレーショナル・リスクの種類
2. オペレーショナル・リスクとは
   - 狭義／広義のオペレーショナル・リスク
   - オペレーショナル・リスクの特徴
   - リスク管理の代表的手法
   - 発生頻度と影響度の把握（ リスクマップ ）
   - リスク管理の一般的な考え方
3. CSA（ Control Self Assessment ）
   - 日本でのCSA実施状況
   - CSAによる業務改善サイクル
   - 評価対象とするリスクの概要
   - なぜCSAを実施するのか
   - 取り組み手順
   - 実施における鍵
4. オペレーショナル・リスクの定量化
   - 主な定量化手法
   - リスク・マップと推計手法
   - リスク量定量化の状況
   - ボトム・アップによるリスク量定量化の課題

Session. 4（90分） 統合リスク管理

1. 顧客資産と自己資金のリスク管理範囲の違い
2. 統合リスク管理の概要
   - 基本的なコンセプト
   - 前提認識
   - 発展の経緯
3. 統合リスク管理の実務
   - 計測方法
   - 計算事例
   - リスク定量化の進展と普及
   - 定量化の前提としてのデータ整備
   - 定量化における留意点
   - リスクの受け皿としての資本
   - 統合リスク管理のフレームワーク
   - ストレス・テスト
4. 統合リスク管理のまとめ
5. 目指すべき自己資金のリスク管理態勢

6/7(金) リサーチ・アナリスト業務【無形資産評価編】

講師 全セッション　三浦 毅司　元 クレディ・スイス証券　株式調査本部　株式調査部　ヴァイス・プレジデント／日本知財総合研究所　代表取締役 CEO

企業価値評価手法は今やすでに爛熟期にあり、無形資産評価は数少ないブルー・オーシャン分野です。無形資産の重要性が叫ばれてから久しいもの、実際の株価評価において無形資産、特に知財の価値が十分に反映されているとは言い難いのが現状ですが、その原因は、機関投資家サイドで知財情報を分析するスキルが不十分だからなのです。
知財情報の多くは公式に公開されており、誰でも閲覧調査することが可能です。 知財は企業の長期的な戦略の下で権利化されることが多く、その内容を読み解くノウハウさえ身につければ、他に先んじて対象銘柄の中長期戦略、または市場で認識されていない業界トレンド（アノマリー）を推し量ることができ、リサーチ力向上のための付加価値を生む強力な源泉になりえます。逆に知らないと大きな不利になりかねません。
さらに2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードには知財情報が加わりました。 機関投資家は、投資情報を得るために企業が開示する知財情報をしっかりと分析し、また投資先に戦略的な知財活用を促す役割が期待されていると言えます。
本講義は、知財評価、中でもとりわけ特許の評価手法にスポットを当て、基礎知識から、特許情報の投資判断への応用、特許の定性的・定量的（金銭的）価値評価の手法とスコアを用いたバリュエーションへの落とし込み方法など実務への応用まで、体系的かつ網羅的に学んでいきます。
現在、無形資産担保の法制化が進められており、無形資産の評価体系が整備されることが想定されます。 近い将来、知的財産そのものが投資対象になる可能性もあり、今のうちに体系的な理解を深めておきたい方に最適の講義です。

Session. 1（120分） 無形資産／知財に関する基礎知識

プロローグ
- 青色発光ダイオードの特許価値はいくら?

1. 無形資産、知的財産とは
   - 無形資産の種類と特徴
   - 知的財産の種類と特徴
2. 無形資産の評価
   - 無形資産の評価（いい特許、悪い特許）
   - 無形資産担保の考え方
3. 諸外国の制度
   - 各国の制度、歴史的な流れ
4. 知財情報の入手方法と内容の読み解き方
   - 特許庁サイトの使い方、特許情報の読み方

❖コーヒーブレイク１：ノーベル賞受賞者が出遅れた特許出願（ゲノム編集）

Session. 2（60分） 特許情報と投資判断

1. 投資対象としての、株式と特許の違い
   - マーケット、プレイヤー
2. 特許と業績・株価との関係
   - 特許価値からアウトパフォーム企業を探す
   - 特許と業績の相関が高い業種・低い業種
3. ネガティブイベントチェックに必須な特許情報
   - 侵害訴訟によるダメージ
   - 特許調査の重要性
4. 有効性判断
   - 特許の賞味期限の測り方
   - 安定した開発の重要性（パテントクリフ）
5. その他、留意点
   - マイナスの特許価値

❖コーヒーブレイク２：いきなり!ステーキの栄枯盛衰

Session. 3（30分） 最近の無形資産に関する話題

1. DX
2. 対話型 AI（ChatGPT）

Session. 4（120分） 特許の定性的価値評価および金銭的（定量的）価値評価の手法

1. 個別特許の定性的評価手法
2. スコアによる定性的価値評価（簡易評価）
   - 評価項目
   - 簡易評価の有効性と使用機会
3. 特許の金銭的（定量的）価値評価手法
   - マーケットアプローチ
   - コストアプローチ
   - インカムアプローチ
4. 非上場企業評価および業界トレンド予測への応用
   - 赤字続きのベンチャー企業、急成長中のスタートアップ企業の評価
   - 特許情報による業界トレンド予想
   - 個別銘柄のセクター内での相対優位性比較

❖ コーヒーブレイク３：日本製鉄のトヨタ提訴

Session. 5（30分） 特許の金銭的（定量的）価値評価事例とミニ演習

事例１）青色発光ダイオード

事例２）オプジーボ

❖ コーヒーブレイク４：本庶 佑氏 vs. 小野薬品

6/10(月) ミドルオフィス業務

講師 | 全セッション | 右田 徹 | 元 イボットソン・アソシエイツ・ジャパン　データ管理部長

資産運用会社はパフォーマンスがすべてといっても過言ではありません。本講義は運用評価業務、主に定量評価について学びます。
リターンとその要因分析、およびリスクについての基本概念を把握した上で、プロが実際に行っているパフォーマンス測定の実務を、さまざまな計算事例に沿って、ひとつひとつ丁寧に、詳しく解説します。
また、講義で紹介される計算方法については、関数式入りのエクセルファイルをご提供いたしますので、後日あらためての復習が可能です。

Session. 1（90分） 運用評価で必要な基礎知識

1. リターン
- 収益率（リターン）の計算
  ～ 収益と収益率の違い
- 収益の実現部分と未実現部分
  ～ 実現損益とトータル・リターンの違い
- 収益率の幾何リンク
  ～ 単利と複利の違い
- 投資金額の変化と収益率
  ～ 時間加重収益率と金額加重収益率の違い
- コンポジット収益率
  ～ 収益率の単純平均と加重平均の違い

2. 要因分析
- 対ベンチマーク比較
  ～ 絶対収益率と相対収益率の違い
- ポートフォリオの業種別構成
  ～ ポートフォリオの評価と業種別評価の違い
- 超過収益率の要因分解
  ～ 業種配分効果と銘柄選択効果の違い
- 個別銘柄寄与度
  ～ 銘柄寄与度と業種内銘柄寄与度の違い
- 運用プロセスによる測定方法の違い
  ～ ボトムアップ法とトップダウン法の違い

3. リスク
- リターンとリスクのトレード・オフ
  ～ 高リスク銘柄と低リスク銘柄の違い
- 分散投資によるリスク低減
  ～ 集中投資と分散投資の違い
- リスクの計算
  ～ 絶対リスクとトラッキング・エラーの違い
- リターンとリスクの総合評価
  ～ 超過収益率による評価とIRによる評価の違い―

Session. 2（90分） パフォーマンス測定の実務 Ⅰ

1. 貸残高・取引明細表からリターン計算まで
- 月次貸借対照表と月次損益計算書／運用実績表／
- 時間加重収益率計算明細書／現金残高表
- 各計算数値例とポイント解説

2. パフォーマンス要因分析の実際 Ⅰ
- リターン計算におけるキャッシュフロー
- キャッシュフローによる収益の調整
  ～ キャッシュフローの立て方（事例解説）
- 時間加重収益率の種類と計算式
  ⇨ 日次厳密法
  ⇨ 複利内部収益率リンク法
  ⇨ 複利内部収益率リンク簡便法
  ⇨ 修正ディーツ法
  ⇨ ディーツ法
- グローバル投資パフォーマンス基準（GIPS）
  ～ GIPS の理念と準拠／主な必須基準
- 日次厳密法リターン
  ～ 理論上のリターンと実務上の比較　測定に最適な計算方法とは何か
- 日次厳密法リターンの計算式
  ～ キャッシュフロー発生のみなし方によって計算パターンは様々に
- 買い始めと売り切り時のリターン
  ～ 買い始め、売り切り時の双方に対応できる計算方法とは

Session. 3（90分） パフォーマンス測定の実務 Ⅱ

1. パフォーマンス要因分析の実際 Ⅱ
- 日次厳密法リターンと時価評価
  ～ 不正確な時価評価によってリターンがゆがむ具体例
- 日次厳密法と修正ディーツ法の比較
  ～ 修正ディーツ法リターンの特徴とゆがみの例
- コンポジット・リターン
  ～ 途中解約などで1年間を通して存在しなかったファンドのリターン算出法
- 超過リターン
  ～ 対ベンチマーク超過リターンを算術的でなく幾何的に計算する利点
- ブリンソン要因分析理論の基礎
  ～ Brinson-Fachler モデルの計算式と要因分解が成立する理由
- 複合効果 ～ 要因分析表における複合効果の表示方法
- 要因分析の誤差項
  ～ 要因分析の誤差の理由は必ず説明できる
- ポートフォリオ誤差
  ～ ポートフォリオ誤差を小さくするには
- ベンチマーク誤差
  ～ ベンチマーク誤差を小さくするには
- リンク誤差
  ～ 2期間におけるリンク誤差の比較例
- プレアデス累積方式
  ～ プレアデス累積方式のメリットと理論的な意味
- 個別銘柄寄与度
  ～ 株式ポートフォリオでの測定例

Session. 4（90分） パフォーマンス測定の実務 Ⅲ

1. パフォーマンス要因分析の実際 Ⅲ
- 複数セクターによる要因分析
  ～ セクター切り口の違いによる銘柄選択効果の意味の違い
- 複数セクターによる多段階要因分析
  ～ サブ・セクター構成比の正規化と国内債券の要因分析における例
- 要因分析における構成比の正規化
  ～ ベンチマーク構成比の正規化と正規化を行わない場合の数値例
- オフバランスを含む運用の要因分析
  ～ オフバランスを用いた場合と用いなかった場合で効果の違い
- オルタナティブ運用等の要因分析
  ～ さまざまな運用スタイルにおけるリターンを要因分解
  どのような運用スタイルであっても、要因分析ロジックを構築するための頭の働かせ方はただひとつ
- リターンとリスクの総合評価
  ～ リスク調整後リターンとは
- 標準偏差とシャープ・レシオ
  ～ シャープ・レシオの計算方法
- トラッキング・エラー
  ～ 推定トラッキング・エラーと実績トラッキング・エラー
- 実績トラッキング・エラーの計算方法
  ～ 平均2乗誤差と標準偏差、それぞれの利点と数値例
- インフォメーション・レシオ
  ～ 数値例と評価方法について
- インフォメーション・レシオの計算方法
  ～ 計算方法の違いと問題点、t検定との関係
- 負のシャープ・レシオとインフォメーションレシオ
  ～ 評価方法における様々な考え方

6/14(金) バックオフィス業務【投信編】

講師 | 全セッション | 東中川 教明 | ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント　ファンド・コントローラーズ部長

本講義では、投資信託における管理業務を体系的に学習します。最初にオペレーションの全体像を把握し、①約定・受渡しに関する業務、②基準価額の計算に関する業務、③決算に関する業務、④追加・解約に関する業務を一通り理解した上で、今後の展開を踏まえながら、業界課題として認識しておくべき点を明確化していきます。
同じ投資運用業でも投資一任とは異なる“ごんべんけいり”と呼ばれる独特の計理仕訳など、グローバルの観点からもユニークな点にスポットを当て、わかりやすく紹介します。

Session. 1（120分） 投資信託のしくみと委託者の役割

1. 投資信託の法令と規則

2. ファンドの形態と関係法人
- 契約型と会社型
- 投資信託・投資法人の分類　～ それぞれの純資産総額及び、ファンド本数
- 公募と私募の違い
- 契約型ファンドの分類と具体例
- マザーファンドとベビーファンド ～ ファミリー方式のメリット

3. 基準価額計算及び追加・解約の流れ

4. 投資信託に関するオペレーション業務
- 1日の業務の流れ
  （約定関連業務、追加解約関連業務、基準価額計算関連業務）
- 投資信託に関するシステム
- 資金繰り照合
- マイナス金利対応
- 追加・解約
- 約定処理
- 時価評価
- 報酬及びファンドの諸費用と計上方法
- 利金・配当金・コーポレートアクション
- 基準価額の照合　～ 相違の原因をいかに迅速に発見するか

5. 自社算出と受任銀行に業務委任する場合の違い
- 受任銀行に計算業務を委託する場合と主な役割分担

6. 投信振替制度
- 投信振替制度移行後の相関図　～ STPとDVPの実現
- 振替投信移行後の非 DVP 決済の資金の流れ
- 受益証券の発行・管理と受益証券券面について
- 基準価額適用日および、元本の増減
- ブラインドルール ／ 希薄化

7. 法定帳簿の管理
- 法定帳簿の種類と電磁的方法による保存

8. レポート作成業務
- 財務諸表
- 運用報告書
- 特別勘定のしおり
- BISリスクアセットレポート／諸官庁・投信協会へのレポート

9. その他
- ファンドの監査（公募投信／私募投信）と価格調査

Session. 2（120分） 計理仕訳 ＋ ミニ演習

1. 計理仕訳（主な計理処理について基本から例題を用いて解説）
- 基本的な考え方 ～ 複式簿記と日計表
- 基準価額の計算方法
- ファンド設定時
- 株式約定
- 債券約定
- 先物（買建&売埋め）
- ファンド・オブ・ファンズ
- 外貨建資産（為替送金、回金）～ 邦貨日計表と外貨日計表

2. 計理仕訳ミニ演習
- 国内株
- 国内債券
- 追加約定／解約約定（株式投信・公社債投信／単位型・追加型）
- 追加処理前と処理後の日計表
- 解約処理前と処理後の日計表
- 追加信託処理明細表の解説
- 解約金処理明細表の解説
- 勘定科目に関する解説

Session. 3（90分） 決算関連業務／外国投信を組入れたファンド・オブ・ファンズの留意点

1. 決算関連業務
- 一般的な分配金決定の流れ
- 追加処理後の分配原資 ～ 基準価額が元本を上回っている場合／下回っている場合
- 解約処理後の分配原資
- 分配金原資の計算方法（原資の内訳）
- 分配原資の一般的な引き落とし順序
- 運用報告書での開示強化
- 収益分配金計算書の解説　～ 分配可能額算出の仕組みを理解する
- 外国所得税控除があった場合の分配金支払い ～ 税制改正が影響
- 分配のトレンド

2. 外国投信を組入れたファンド・オブ・ファンズの留意点
- 概観図による解説
- ファンド・オブ・ファンズの形態と特徴
- 公募ファンド・オブ・ファンズのルール
- 外国投信を組入れる際の主な要件
- 組入れる外国投信のしくみ（ユニットトラスト／コーポレートファンド）
- 外国投信の評価
- 外国投信からの分配金受取の問題点
- ファンド・オブ・ファンズ設定のメリット
- 外国投信を組入れる際の留意点　～ 要件の裏返し、資金繰り etc…
- スナッププライスとフェアバリュー
- スウィングプライシング（Swing Pricing）～ 信託財産保留金のような効果
- 国籍による違いのイメージ

Session. 4（30分） 投信業界における最近の話題 と 今後の課題

1. 基準価額の一元化　～ DUAL NAV と SINGLE NAV

2. マテリアリティポリシー

3. 最近のトピック
- SMA／ラップ口座へのファンド提供
- 積立NISA、DCにおけるデフォルトファンドの設定
- バーゼルⅢ
- アジア地域ファンドパスポート（ARFP）

6/19(水) 投資信託約款の読み込み方
～「法律的根拠」や「制度的背景」、明文化されていない「業界の知見」を学ぶ

講師 全セッション　宮園 喜明　元 三井住友信託銀行　受託業務推進部　投信受託課　主任調査役

投資信託約款は、運用会社と信託銀行とがファンドの運用や運営の方針について規定する信託契約ですが、各種法令や投信協会諸規則に従った難解な法律文書であるうえに、読み込むには教科書的知識に加えて実務における経験や明文化されていない業界の知見も必要となります。従って、単に参考書を見ただけでは深い理解に至ることは難しく、多くの方が苦手意識を持たれているのが現状のようです。
本講義では、最初のセッションで約款を読み込むための基本を的確に押さえ、業務上よく受ける質問に対して回答するように約款の条文を噛み砕いてご説明します。テキストの構成にあたってもポイントを絞り込み、なんとなく理解したつもりになっているような事項について法律的根拠や制度的背景、また業界の知見をご説明し、「そうだったのか!」と腹落ちしてもらえるよう丁寧に作り込んでいます。
本講義は、実際に約款作成に携わっている方や法務部門の方だけでなく、投信の企画・販売部門、ディスクロージャー、また運用部門の方にもお薦めします。投資信託をパーツパーツではなく、総体的に理解するための貴重且つ有益なプログラムです。

Session. 1（90分） 約款を読み込むための基本知識

1. 「 投資信託約款 」とは何か
2. 「 投資信託 」の「 信託 」とは何か
3. 投資信託の全体像
4. 「 株式投資信託 」と「 公社債投資信託 」
5. 「 証券投資信託 」について
6. 「 有価証券 」について
   【参考】「 法体系 」について、「 条文の構成 」について
   【参考】「 私募投資信託 」について
   【参考】「 金融機関の経営指標と投資信託運用 」

Session. 2（90分） 約款本文からポイントを学ぶ Ⅰ

1. 信託の種類、委託者及び受託者
   ～ 委託者指図型投資信託契約の締結
2. 信託事務の委託
   ～ 原受託者から再信託受託者へ信託事務の再委託
3. 信託の目的及び金額、信託金の限度額
   ～ 個別元本方式への変更の影響
4. 信託期間
   ～「 信託契約解約の日 」及び「 信託終了の日 」
5. 受益権の取得申込みの勧誘の種類
   ～ 金商法の規定と投信法の規定
6. 当初の受益者、受益権の分割及び再分割
   ～ 受益権の再分割は社振法による
7. 追加信託の価額及び口数、基準価額の計算方法
   ～ 純資産総額の計算
8. 信託日時の異なる受益権の内容
   ～ 分配金はなぜ基準口数当たり同額か
9. 受益権の帰属と受益証券の不発行
   ～ 社振法の適用と振替受益権
10. 受益権の申込単位及び価額
    ～ 金融商品取引業者と登録金融機関
11. 受益権の譲渡に係る記載又は記録
    ～ 振替口座簿に係る振替機関等とは
12. 受益権の譲渡の対抗要件
    ～ 委託者及び受託者への対抗要件
13. 投資の対象とする資産の種類
    ～ 特定資産および特定資産以外の資産
14. 運用の指図範囲等～第1項有価証券、第2項有価証券の具体例

Session. 3（90分） 約款本文からポイントを学ぶ Ⅱ

1. 利害関係人等との取引等　～ 利益相反行為について
2. デリバティブ取引等にかかる投資制限
3. 信用リスク集中回避のための投資制限
4. 信託業務の委託等
5. 混蔵寄託　～ 混蔵寄託の内容とその代表例
6. 投資信託財産の登記等及び記載等の留保等　～ 信託の登記、及び具体例
7. 資金の借入れ　～ 三者協定書、四者間覚書
8. 受託者による資金の立替え　～ 受託者が行う未収入金の立替え
9. 信託の計算期間　～ 内閣府令における例外規定
10. 信託財産に関する報告等　～ 金商法の規定と投信法の除外規定
11. 信託事務の諸費用　～ 公募投信におけるファンド監査
    【参考】「 公社債投資信託 」について
    【参考】「 ファンド併合 」について

Session. 4（90分） 約款本文からポイントを学ぶ Ⅲ

1. 信託報酬の総額及び支弁の方法
   ～ 未払費用の信託報酬額は消費税相当額込み
2. 収益の分配方式
   ～ 追加型、単位型での違いと、追加型公社債投資信託
3. 収益分配金、償還金及び一部解約金の支払い
   ～ 投信協会規則との整合性
4. 収益分配金及び償還金の時効
   ～ 収益分配金5年、償還金10年の根拠
5. 信託契約の一部解約
   ～ 信託財産留保額とその導入の経緯
6. 質権口記載又は記録の受益権の取扱い
   ～ 第三者に対抗する為の質権口記載
7. 投資信託契約の解約
   ～「 できます 」規定と「 させます 」規定
8. 受託者の辞任及び解任に伴う取扱い　～ 旧法信託約款の規定との違い
9. 投資信託約款の変更等　～ 重大か非重大かを判別するフロー
10. 反対受益者の受益権買取請求の不適用
11. 運用報告書に記載すべき事項の提供
12. 公告　～ 約款では官報への掲載を公告の手段としない
    【参考】「 一人私募 」について

夏季限定テーマ

6/21(金) オルタナティブ投資関連業務【不動産ファンド／J-REIT編】

講師 Session 1＆2　大谷 咲太　三井住友トラスト基礎研究所　上席主任研究員
Session 3＆4　堀 明希子　三井住友トラスト基礎研究所　REIT投資顧問部　上席主任研究員

不動産は、長期的に安定したキャッシュフローが見込める資産です。不動産を証券化した金融商品である不動産ファンド・J-REITは、制度が整って以降、高い投資ニーズを受けて規模を拡大してきました。存在感・重要性が高まっている一方で、不動産ファンド・J-REITの運用業務を行うには不動産と金融という2つの異なる分野を理解する必要があり、知識習得には他の金融商品にはない難しさがあります。
本講義では、不動産や証券化の基礎から不動産市場の予測方法、リスク管理（予兆管理）、J-REITの投資実務、最近の不動産市場およびJ-REIT市場の動向に至るまでを詳しく説明します。不動産と金融それぞれの視点を意識しながら、初めて不動産ファンド・J-REITに関わる方にも実務上の留意点をわかりやすく解説します。

Session. 1（60分） 不動産投資とは

1. 不動産投資の特性
   ・不動産の特性　～ 株・債券投資とは何が違うか?
   ・不動産投資商品の種類
2. 不動産投資の基礎
   ・不動産市場の歴史
   ⇨ 不動産証券化商品が生まれた背景、意義
   ⇨ 不動産証券化の仕組みと法制度
   ・不動産投資商品の特性　～ どの商品を選ぶべきか?
   ⇨ 実物不動産
   ⇨ 不動産ファンド（J-REIT、私募ファンド、私募REIT）
   ⇨ 市場規模とリスクリターン特性
   ・不動産価格の考え方
   ⇨ NOI、キャップレートなど

Session. 2（120分） 不動産市場の読み方とリスク管理手法

1. 不動産賃貸市場の読み方
   ・主要プロパティタイプの特性（オフィス／住宅／商業施設／物流施設／ホテル／その他）
   ・賃貸市場の分析手法　～ 需給構造の捉え方
   ・賃貸市場の動向と見通し　～ 有望なタイプはどれか?
2. 不動産投資市場の読み方
   ・エクイティ投資家の動向と見通し
   ⇨ SWF
   ⇨ 年金基金
   ⇨ 生損保
   ⇨ その他海外投資家等
   ・レンダーの動向と見通し
   ⇨ 主要銀行の動向
   ⇨ 金利・期間・LTVの推移と見通し
   ・不動産取引動向と見通し
   ⇨ エリア・タイプ別の取引動向、プレイヤー別の取引動向
   ⇨ 不動産取引市場のサイクル
3. 不動産投資のリスク管理手法
   ・リスク管理の必要性
   ・不動産リスクの計量方法
   ⇨ 伝統的な方法（VaRなど）
   ⇨ シナリオ分析によるストレステストなど
   ・予兆管理によるリスク管理　～ 価格上昇・下落のタイミングを先読みする
   ⇨ 不動産価格DIによる予兆管理
   ～ 降水確率（不動産価格の下落確率）をモニタリング
   ⇨ ヒートマップによる予兆管理
   ～ 雲の動きをモニタリング
   ・リスク管理を行動につなげる
   ⇨ リスク管理手法の選択
   ⇨ リスク管理を行動につなげるための社内体制

Session. 3（60分） J-REIT投資実務 Ⅰ

1. J-REITの基礎知識
   ・基本構造
   ・市場概況（保有資産、セクター配分、投資家動向）
   ・商品特性（リスク・リターン特性）
2. J-REITの成長メカニズム
   ・プレミアム増資効果
   ・分配金とNAVの成長メカニズム
   ・成長サイクル　～ 理論と実際
   ・内部留保
   ・利益超過分配
   ・自己投資口取得
3. 決算処理
   ・ファンド毎の計理基準と決算処理
   ・元加と収益払い出し（簿価会計／時価会計）
   ・決算処理での留意点

Session. 4（120分） J-REIT投資実務 Ⅱ

1. 最近の市場動向
   ・金融緩和下のJ-REIT
   ⇨ 投資家動向、日銀買い入れ
   ⇨ J-REITの運用状況
   ・コロナ禍のJ-REIT
   ⇨ 運用状況の変化と業績への影響
   ⇨ セクター別のパフォーマンス、バリュエーション変化
2. 銘柄評価、モニタリングの視点
   ・銘柄評価・モニタリングのプロセス
   ・銘柄評価の主な視点
   ⇨ ポートフォリオ戦略
   ⇨ 不動産運用力、物件取得力
   ⇨ 資金調達力、財務戦略、金利上昇に対する耐性
   ⇨ 運用体制、ガバナンス
   ・リスクイベントの発生と対応
   ⇨ 大口テナント退去
   ⇨ 災害
   ・ESGへの取り組み
3. バリュエーションの考え方
   ・代表的な投資判断指標
   ⇨ 予想配当利回り
   ⇨ P/NAV
   ⇨ インプライド・キャップレート、
   ・セクター別、銘柄別のバリュエーション比較

特別企画

6/24(月) 投資顧問考察 2024 ～活用戦略と将来ビジョン

講師 全セッション 和村 雅義 エックスネット シニアコンサルタント

投資顧問の仕組みを活用して運用を行うビジネスは多岐に広がっています。本テーマでは、その役割が果す様々なバリエーションについて紹介します。「こんな分野にも投資顧問が活用されているのか!」と、講義を通じて、投資顧問スキームが驚くほど大きなポテンシャルを秘めていることを実感し、新たなビジネス展開へのヒントを掴んでいただきます。企画部門だけでなく、「投資顧問ビジネスにもっと盛り上がってほしい」と考えている全ての方にお薦めする特別プログラムです。

Session. 1（90分） 投資助言・投資一任の伝統的ビジネス

まずは伝統的なビジネスのスタディから。投資助言ひとつとってみても、いろいろなビジネス類型があることについては意外に知られていません。

1. 投資助言
～投資顧問のはじまりは助言。これを活用するだけでも様々なビジネスに展開可能。

- レポート助言
- 個別銘柄助言
- モデルポート助言
- 投信銘柄助言
- 運用会社助言

2. 投資一任
～投資顧問の典型的な運用形態。ポピュラーな年金等において広く活用されています。

- 投信組入運用
- 個別銘柄運用
- バランス運用
- 特化型運用
- オルタナティブ運用

Session. 2（90分） 投資信託ビジネスにおける投資顧問の活用

投資信託の分野においても、投資顧問とは密接に関係しています。外形的には投資信託でも、実は投資顧問として運用しているビジネスストラクチャーは多様に存在します。

1. 国内投資信託における外部委託
～実は外部委託運用は投資顧問として運用されている。

2. 国内投資法人
～日本版会社型投資信託。この運用も投資顧問。

- 不動産ファンド
- インフラファンド
- ベンチャー支援投資法人

3. 外国投資信託
～多くは会社型投資信託。これらはさらに多様なビジネスに拡大中。

- 会社型投信
- 上場投信（ETF 等）
- ヘッジファンド
- マネージャー・オブ・マネージャーズ
- 持ち込み外国投信

Session. 3（90分） 投資事業組合、LPS、プライベート・エクイティにおける投資顧問の展開

投資事業組合、LPS、プライベート・エクイティといった分野も投資顧問の世界。これらも投資運用業、助言業として運用を行っているビジネスです。様々なタイプの器によって投資顧問の仕組みが活用されています。

1. 国内投資事業組合
～少し毛色の異なる投資顧問ビジネスの世界をご紹介。

2. LPS（リミテッド・パートナーシップ）
～海外投資事業組合。この仕組みによって、さらに足場が広がっていく。

3. プライベート・エクイティ
～ここでも様々な形態が。

- ベンチャー・キャピタル
- バイアウトファンド
- 再生ファンド
- ディストレスファンド

Session. 4（90分） ラップ、SMAでの投資顧問の展開

運用主体はアセットマネジメントではなく主に証券会社ですが、証券会社が投資顧問会社を兼営することによって投資顧問ビジネスを展開。証券の世界においても投資顧問は拡大中です。

1. ラップ
～証券会社の投資顧問ビジネスとは?

- 投資助言投資信託ラップ
- 投資一任投資信託ラップ
- 投資一任個別銘柄ラップ

2. SMA
～富裕層を対象にした展開。

- ラップとSMAの違い
- 富裕層へのプライベートバンキング
- 投資顧問ビジネスの注目ポイント

6/27(木) AI 運用 ～資産運用における AI 開発とデータサイエンスのデザイン

講師
Session 1＆2 長尾 慎太郎 楽天投信投資顧問 パッシブ運用室 部長
Session 3＆4 西村 方斗英 日興アセットマネジメント ソリューション部 クオンツ商品開発グループ

本講義では、資産運用業務における AI（人工知能）技術の適用の実際を学びます。
ここ数年で AI技術は様々な分野に用いられるようになり、既に一部の分野で目覚ましい成果をあげつつあります。しかし、金融分野においてもその可能性が注目されているものの、資産運用への適用については、金融市場の特殊性ゆえに、いくつかの克服すべき課題が存在しています。
このため講義の流れとしてとして、まずこれらの課題整理を行い、その解決法を概観してから、AIの研究開発はどのように進めていけばよいのかについて、実例を紹介しながら考察していく構成で進めていきます。
本プログラムは、資産運用業務における AI技術の適用の可能性・方向性に興味のある方、これから自社での研究開発を検討されている方など、幅広い層を対象としています。

Session. 1（80分） 資産運用におけるAI

1. 金融市場とサイエンス

- 科学哲学パラダイムの変遷を振り返る
- 科学で未来の予測は可能か? ～ 金融市場の予測は当たるのか?
- 金融市場は複雑な人間活動システム ～ 複雑なシステム二種
- 金融市場を理解する際の課題と解決法

2. AI（人工知能）とは何か?

3. 金融機関における機械化

- AIが解決する社会的課題
- 金融機関におけるAIによる課題解決の中心は“機械化”
- 非エルゴード性
- 金融市場における未来予測
- 金融市場の理解の歴史
- 金融機関におけるAIの特徴

Session. 2（100分） データサイエンスのデザイン

1. 人間の弱点とAIの強み

- 限定合理性 - bounded rationality
- ヒューリスティック - heuristic
- メンタルモデル - mental model
- 帰納法と人間
- 人間の判断 vs 機械的ルール
- 投資行動にみられる非合理性 ～ スキューの選択
- 性格（Big-5）と投資適性
- 人間に勝つためにAIをどのようにデザインすればよいか
- 人間の弱点とAIのデザイン

2. AIとイノベーションのジレンマ

- AIは何のために?
- 2種類のイノベーション
- 破壊的イノベーションとイノベーションのジレンマ
- イノベーションのジレンマの事例
- 投資信託の価値構造の問題
- 資産運用業界におけるイノベーションのジレンマ

3. 金融市場および資産運用業界における AI の可能性

- AIを適用しようとする際の諸問題
- データ量の不足に対処する
- AIの社会的な課題 ～ 失われた可読性と説明責任
- AI開発のアプローチ３種
- 金融市場における知識創造と学習
- テーマ型ファンド問題
- AIを適用する対象とモデルの構造
- アンサンブル学習（集団学習）
- 資産運用におけるAIの役割
  【参考】Precision と Recall

4. Closing Comment

- 資産運用業界の未来
- AIのデザインのポイント ～ 知識を与える
- 知的創造・知的獲得の重要性

Session. 3（120分） AI運用

1. AI運用とは ～ そもそもどのようなものを指しているのか?

- 様々なデータソース ～ オルタナティブ・データの活用
- 機械学習のイメージ ～ 講師あり学習と講師なし学習
- 伝統的クオンツ運用との関係 ～ 適切な手段を用いることが大切
- 分析対象となる金融市場の特性

2. 機械学習イントロダクション ～ 機械学習を用いた分析の流れ

- 分析のデザインとよく用いられる前処理の例
- モデルの決定と学習 ～ オーバーフィッティングとアンダーフィッティング
- バイアスとバリアンス
- 5-Fold Cross Validation ／ Time Cross Validation
- 評価

3. 代表的なモデル

- 回帰モデル ～ 回帰分析とファクターリターン
- スパース推定 ～ ビッグデータ時代の推定方法
- 正則化法 ～ 正則化項の影響
- Ridge Regression
- Lasso ～ 変数選択と問題点
- 金融データへの応用
- Rapach et al ～ 日本株での分析と結果
- 変数選択の例
- Graphical Lasso ～ 資産間の相関を可視化

4. クラスタリング（K-means 法）

- 投資信託のクラスタリング ～ 戦略の分散やマネージャー管理への応用
- 決定木 ～ アルゴリズムの例と注意点

5. ランダムフォレスト ～ 決定木を複数用いる

- アンサンブル法とアルゴリズム
- ランダムフォレストを用いた投資戦略

6. ディープラーニング（CNN）

- ニューラルネットワーク
- 活性化関数と損失関数の最小化
- 誤差逆伝播法
- コンボリューションとプーリング
- ディープラーニングでチャートを学習
- パラメータ設定とモデル化 ～ ファクターリターンとバックテスト

7. テキストマイニング ～ 資産運用業界での応用

- 金融におけるテキストマイニング
- アルファソースとしてのテキストマイニング
- 運用者を補助するためのテキストマイニング

Session. 4（60分） AIを用いた運用戦略の開発におけるポイント

1. モデルの概要を検討

2. 解釈性の問題

3. リスク管理とモデル評価

4. AI運用戦略を評価するときに注意すべき点

6/28(金) バックオフィス業務【投資顧問・投資一任編】

講師			
	Session 1＆2	小田 康治	エックスネット　シニアコンサルタント
	Session 3＆4	今成 昭彦	エックスネット　シニアコンサルタント

資産運用会社のバックオフィス業務は、フロント業務に比べ、一般に紹介される機会がほとんどないのが実状ですが、バックオフィスの各業務は組織の中で極めて重要な役割を担っています。
この講義では、主に投資一任業における管理業務を体系的に学んでいきます。前半の業務概観では実際にファンドを日々、どのように管理しているのか、データがどのように使われているのかを約定処理と併せて、細部に至るまで詳しく紹介。

後半ではバックオフィスの最も大きな役割である信託報告書との照合作業の実務、さらに、運用報告とディスクローズ関係の業務についても、わかりやすく解説します。実務者のみならず、管理業務の全体構造を把握したいシステムソリューション企画・開発・営業担当の方にとっても充実の内容です。
なお、本講義は中級レベルのみの内容になりますので、基本から学びたい方は「総合基礎」3限目の「バックオフィス業務の基礎」をあらかじめご受講されることをお薦めします。

Session. 1（120分） バックオフィス業務の概観とファンド管理の実務

1. バックオフィス業務の概観　～ファンド管理システムを中心とした相関図を基に解説
インプットとアウトプット／ファンド管理データの要件

2. ファンド属性設定・銘柄属性設定
・ファンド属性の確認　～正確なファンド情報入手／手続きの事前確認 / 事前確認の主な留意点
・ファンド属性の登録　～正確なファンド属性の登録／ファンド属性の種類 / ファンド属性の項目
・銘柄属性登録および時価情報入手　～国内証券／外国証券および為替レート

3. ファンド管理（日次・月次等の流れ）
・日次業務の流れ
・月次・四半期業務の流れ

4. 法定帳簿等の電子化及び法定に基づいた保存
・法定帳簿（運用報告書）の保存
・信託報告書
・その他保存必要書類（議決権行使の招集通知、判定書、指図書）
・その他保存必要書類（日次・月次処理における証跡書類）

Session. 2（60分） 約定処理と議決権行使の実際

1. 約定処理（国内資産）
・国内資産約定処理／一般振替 DVP 制度／海外証券の決済
・海外カストディー決済のスケジュール

2. 約定処理（海外資産）
・海外証券の決済／外国カストディ決済のスケジュール／現地決済資金フロー／外国証券約定処理
・為替約定管理／決済とフェイル管理／為替紐付け／カバー&ノンカバー経理
・ノンカバー取引における外貨預金と未収・未払金／外貨建証券ノンカバー取引の仕訳
・約定ベース・ノンカバー処理（外国株式：売り）

3. 株式議決権行使
・議決権行使の対象ファンド
・議決権行使の方法と日本株式の議決権行使
・日本株式の議決権行使（ICJ 等利用例）／外国株式の議決権行使（ISS 等利用例）
・日本株式議決権行使状況／ ICJ プラットフォーム

Session. 3（120分） ファンド照合の実務

1. 信託報告書とは何か?
・「受託者」として信託銀行の勘定系システムで管理した様々なデータをアウトプットしたもの
・基本は貸借対照表／損益計算書／保有明細／取引明細等　各社で仕様は様々
・財産管理としての「正解」はこの信託報告書

2. 投資顧問業における関係者

3. 投信の場合は?

4. グローバル・スタンダードとの違いは?

5. 照合・突合とは何か?　～運用会社のデータを「正しい状態」に矯正すること

6. 両者に何故差が生じるのか?
・非約定取引／運用会社が日常的に把握しない経費類／受託銀行の裁量で運用される短資部分

7. 何故矯正が必要なのか?
・運用会社保有データの検証／財産管理として正解は信託報告書／簿価の一致は必須
・時価の一致は運用会社の考え方次第／委託者は一物二価が理解しづらい

8. 「照合」の概念

9. 払出簿価相違の典型的ケース

10. どんな点を検討すべきか
・キャッシュはオーバーナイトで運用、インカムはデイリーで発生
・日々の時価・未収利息をどこまで追求するか?
・損益の資産区分は?
・損益はネットで充分か?

11. ファンドの経理基準
・約定基準と受渡基準／簿価会計と時価会計／実現主義と発生主義
・多くの組合せがあるが信託報告書は当該基準で作成

12. 運用会社の保有データ基準
・ファンドの経理基準が受渡会計であっても約定基準が必要
・照合作業には簿記の知識が必須

13. 照合作業の具体的手順
・BS／PLレベルで概略を把握／有価証券残高の比較／不足取引の入力／取引修正
・残高作成・照合／時価・未収収益確認／確定BS／PLの作成

14. 決算処理
・当期データと運用開始来データ／洗替え

15. 日次の照合
・要は「工夫」と「見極め」

Session. 4（60分） 運用報告書の実務

1. 報告書の種類

2. 運用報告としての法定書面
・「受託者責任」「利益相反」「顧客保護」の観点による項目が中心
・金融商品取引法42条の7

3. 運用報告書の目的

4. 運用報告書の役割

5. サンプルと作成プロセス

6. 運用報告以外の法定書面
・契約締結前書面、契約締結時書面、株券保有状況通知書

7. 契約書業務、位置付け

8. 法定書面の意味 ～ 法定帳簿とどう違う?

9. 特定投資家と一般投資家

10. 投資顧問料業務

11. バックオフィス・スタッフの時間割

12. 今後の課題

未開講テーマについての次回予告

外国籍投信関連業務【基礎・導入編】
国内私募と公募用ファンドだけではなく FoF's の投資対象として重要になった外投について、その設立地やスキーム、目論見書の作成、商品開発にあたっての規制やオペレーションなど、基本的なところを一通り学習します。
次回開講予定▶▶▶ 2025年3月

外国籍投信関連業務【基礎・導入編】
基礎編のアドバンス講義として、設立地による法体系の違い、主要スキーム、オペレーション上の注意点、タームシート作成、償還、現地の法制度変更対応など幅広く実務全般を学びます。貴重な実体験によるトラブル事例にも触れます。
次回開講予定▶▶▶ 2024年9月

ESG投資の実務
グローバルESG債券投資では、スマートベータ／パッシブ志向とインパクト投資の2極化に向かう最新のトレンドについて解説。最後のESG株式投資のセッションは本場欧州ロンドンから生配信にて最先端をご紹介します。
次回開講予定▶▶▶ 2024年9月

オルタナティブ投資関連業務【プライベート・エクイティ・ファンド編】
投資家、運用者、ゲートキーパーとしての豊富な経験を踏まえて、仕組みなどの基礎から、リスク管理の方法など実務まで網羅的に解説。旬なトピックとして、インフレリスクやESG投資との関係について紹介します。
次回開講予定▶▶▶ 2024年9月

オルタナティブ投資関連業務【ヘッジファンド編】
ヘッジファンドについて体系的に理解します。戦略分類ではそれぞれのアルファのとり方など特徴づけ、FoHFやマルチ戦略HFは体系的に整理してわかりやすく解説。実務面では評価時のファンドをみるポイントについて詳しく説明します。
次回開講予定▶▶▶ 2024年9月

オルタナティブ投資関連業務【海外インフラストラクチャーファンド編】
グローバルに展開するインフラファンドを俯瞰しながら、プロジェクトファイナンス・インフラデットというアセットクラスに特化した投資戦略、趨勢と動向について詳説します。
次回開講予定▶▶▶ 2024年12月

オルタナティブ投資関連業務【不動産ファンド／J-REIT編】
アセットクラスとしての不動産の考え方から、各種投資指標の見方、市場動向の読み方、リスク管理の方法、REITの仕組みやその運用実務まで詳しく解説。ESGなどの最新トピックも含め、網羅的に学ぶことができます。
次回開講予定▶▶▶ 2025年6月

実務で使われる金融工学の基礎
ファイナンス理論との接点からマルチファクターモデルまで、サンプルを用いながらわかりやすく説明。講義に使うエクセルのツールはご提供。バーラモデルやクオンツ運用に関心ありながらも難しいイメージをお持ちの方にお奨めです。
次回開講予定▶▶▶ 2024年9月

リサーチ・アナリスト業務【無形資産評価編】
知財・無形資産担保の法制化が急ピッチで進められている昨今。今後、評価基準の整備とともに知的財産そのものが投資対象になる可能性もあり、その体系的理解と分析のための基本スキルを備えておくのに最適な内容となっています。
次回開講予定▶▶▶ 2024年12月

リサーチ・アナリスト業務【企業価値分析基本編】
本講義は、アナリストが行う企業分析業務を対象とします。決算書、財務分析に関する基礎知識から始め、企業インタビューの手順、業績予想、企業価値評価の基本的な手法を学習し、最後に全般的な演習を行い、アナリストが企業の想定株価を算定するまでの知識・ノウハウを体系的かつ網羅的に学んでいきます。学びなおしにも最適の講義となっています。
次回開講予定▶▶▶ 2024年9月

AI・フィンテック最新事情【オルタナティブデータ編】
ニュース、SNS、POS、衛星画像等のいわゆるビッグデータとAI 技術を融合させた「オルタナティブデータ」をアクティブ運用におけるアノマリーとして活用を試みる研究に焦点を当て、市場分析方法や投資戦略を紹介していきます。
次回開講予定▶▶▶ 2024年9月

AI・フィンテック最新事情【ESGクオンツ編】
クオンツ&AI技術とESG投資を融合させる最先端の取組みについて、分析事例や研究成果とともに学術・実務の双方から詳しく紹介します。日進月歩の分野につき、回を重ねる毎に掘り下げた内容になっていくのが特徴です。
次回開講予定▶▶▶ 2024年12月

※ 2024年4月時点での予定です。
時期の変更、新規テーマの設定は適宜ございます。

お申し込みは Web から

受講申し込み手順

https://www.nikkeimm.co.jp/wasedafmib/

上記、日経メディアマーケティング株式会社のWebサイトからお申し込みください。ファンドマネジメント講座 検索

お申し込み受付完了後、事務局より確認のメールをお送りいたします。
（お申し込み後、一営業日が過ぎても事務局からメール返信がない場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。）

別途送付する請求書に記載のお支払い期日までに指定の口座に受講料をお振り込みください。（振込手数料はご負担ください）
※記載の受講料は、日本国内からのお申し込みに限ります。海外からお申し込みをされる場合は、別途事務局へご相談ください。

対面受講ご選択の場合

ご受講までの流れ

- お申し込み受付完了後、「受講票」をお送りいたします。
- 「受講票」は当日お忘れなくお持ちください。

※受講料のご入金状況によっては、受講票をお持ちいただいても受講できない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

- テキストは当日会場でのお渡しになります。

ご注意事項

- 受講のお申し込み受付は先着順です。定員に達した時点で締め切らせていただきます。
- 講座の応募状況により、受講定員を変更させていただく場合がございます。

その他、新型コロナ感染防止対策について

- 早稲田大学構内においては、政府の指針に従い、マスクの着用を求めないことを基本とします。
- 新型コロナウイルス感染症の検査で陽性となっている方や症状のある方、同居する家族に陽性者がいる方は、周囲の方に感染を広げないために、対面での受講は控えてください。

オンライン受講ご選択の場合

ご受講までの流れ

- 受講料のお振り込みを確認後、開講4～5日前に製本済みのテキストをご指定の住所宛に発送します。
- Zoomは主催側の回線を使いますので、インターネット環境があれば、どなたでもご受講可能です。
- 開講3～4日前にID／パスコードをメールにてお知らせします。
- 当日、Zoomミーティング用ID／パスコードをクリックしてご受講ください。

ご注意事項

- 受講にはパソコンもしくはタブレット（カメラ付）とインターネット環境が必要です。
- スマートフォンは画面が小さいため不向きです。
- カメラを必ずONにしてご受講ください（OFFでの受講は不可）。
- テキスト一斉発送後にお申し込みをいただいた方へのテキストの発送は講義終了後になりますことを、あらかじめご了承ください。
- 受講者側において通信トラブルがありましても、講義はそのまま進めますので、緊急連絡先までご連絡ください。

対面、オンライン 共通のご注意事項

- 撮影・録音・録画等は禁止です。
- テキストの一部あるいは全部についてコピー、転載等の二次的使用は禁止です。
- 都合により、講師および講義内容を変更する場合がございます。
- 受講生が一定人数に満たない場合、講座を中止することがございます。中止決定は講義日の7日～10日前に行います。中止の際には受講料を全額、返金いたします。また、講師の緊急の都合などにより、中止、延期、時間短縮などさせていただくことがございますので、あらかじめご了承ください。

開講前のキャンセルの取り扱いについて

講座開始日 7日前以降のキャンセルに伴う返金はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。
キャンセルのご連絡は電子メール、もしくは、Webサイトの「お問合せフォーム」にてお願いいたします。

※ **申し込み受付完了後は、いかなる場合も、受講料の振込のないことをもってキャンセルとはみなされません。キャンセルの際は、必ず事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。**

お問い合わせ、資料請求は、こちらまで

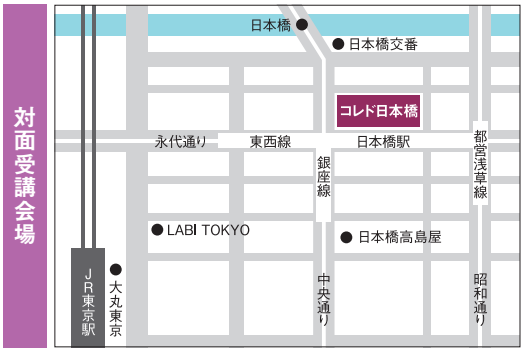
日経メディアマーケティング（株）
早稲田大学FM＆IB講座事務局
〒103-0027 東京都中央区日本橋3-9-1　日本橋三丁目スクエア7階
TEL 03-4232-7463
メール wasedafmib@nikkeimm.co.jp

お問合せ受付時間：月～金 10:00～17:00（土・日・祝日休）
※年末年始の営業日につきましてはWebサイトをご覧ください。

ファンドマネジメント講座講師の自薦他薦に関するご連絡も歓迎します。

日経メディアマーケティング株式会社の協力について

本講座は企画・運営及び、募集活動において、日経メディアマーケティング株式会社の協力を受けています。



早稲田大学日本橋キャンパス
〒103-0027　中央区日本橋1-4-1
COREDO（コレド）日本橋 5階

※ 午前11時まで中央通り沿いの入口が閉まっていますので、地下、もしくは永代通り沿いの入口よりご来場ください。

アクセス
- 東京メトロ銀座線・東西線・都営地下鉄浅草線「日本橋」駅直結
- JR各線「東京」駅より徒歩 6分

⚠ 個人情報の取り扱いについて

「資料請求」や「アンケート」の記入時、講座のお申し込み時等にお預かりした個人情報につきましては、受講案内やガイダンス等の開催案内に使用いたします。お預かりしました個人情報を、お客様の同意なしに業務委託契約締結先以外の第三者に開示・提供することはございません（但し、法令等により開示を求められた場合を除く）。お客様の個人情報は、早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センターおよび日経メディアマーケティング株式会社にて管理させていただきます。